

## 第5章

### 資料

# 感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(57)

(平成21年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	731-2308
北浜医院	南区別所3-8-3-1F	712-1700
あずま医院	南区庚台58	231-7026
木庭医院	港南区野庭町672-5	844-2665
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区釜利谷東2-1-1 ハザアル金沢文庫4F	783-5769
林内科眼科クリニック	金沢区並木2-10-5	785-2000
金沢中央医院	金沢区六浦2-6-8	783-7931
中野子どもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区太尾町946-1	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
皆川小児科	緑区中山町305-20 レオナードビル中山1F	933-1134
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
岡本診療所	青葉区青葉台1-29-5	981-9541
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082

葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルテゼン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
川上診療所	戸塚区川上町359	822-5074
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
萩原医院	戸塚区上倉田町1004-1	861-2823
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉町2812	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
かなた内科クリニック	瀬谷区中央6-20 マルエツ瀬谷店3F	300-3039

#### 小児科定点(88)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
田中小児科医院	鶴見区東寺尾2-15-34	581-2880
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
小児科佐久間医院	鶴見区馬場4-31-15	581-2604
山崎医院	鶴見区東寺尾6-32-15	581-4003
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央4-43-6	506-3657
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
相見小児科医院	神奈川区七島町148	421-2972
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアークビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
弘明クリニック	南区通町4-84メルベィユ弘明寺2F	721-3611
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
八木小児科医院	港南区野庭町599-9	845-1177
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル3F	336-2260

おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ヶ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ヶ谷区上管田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58 大洋ビル2F	361-0212
サンクリニック	旭区柏町97-8	366-6822
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
左近山クリニック	旭区左近山1186-2 左近山団地7-14-101	351-6541
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野ビル2F	785-1152
江原小児科医院	金沢区並木1-14-2	773-8533
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2階-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
太尾こどもクリニック	港北区太尾町517	531-2525
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
津崎小児科	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
吉田小児科医院	緑区霧が丘3-8-3	921-5851
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
あかねファミリークリニック	青葉区あかね台1-17-38	985-6607
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
こどもの木クリニック	都筑区荏田南3-1-7	947-1888
マサカ小児科内科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566

ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
東戸塚小児クリニック	戸塚区品濃町535-2 ニューシティ東戸塚タワーズシティ1st302	825-1799
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉町2860-1	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・テ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルウイレッジ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

#### 眼科定点(18)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 リキヘリアンサス1F	313-2022
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
山科眼科	南区別所3-8-3	731-0010
池袋眼科医院	港南区上大岡西2-9-24	842-0380
小野江眼科	保土ヶ谷区帷子町1-12	335-2171
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5 丸伊ビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィーヴ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
中山北口眼科	緑区中山町306-1 ミヨシズシートビル502	930-3090
太田眼科医院	青葉区美しが丘1-23-3	901-1385
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10 第3フジモトビル2F	985-3719
浜崎眼科医院	都筑区勝田町1298-2	949-4222
秋元眼科医院	戸塚区柏尾町1016	822-2520
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 緑園都市ライフ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

#### 性感染症定点(26)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮膚科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
中尾泌尿器科医院	港南区上大岡西1-19-17 ロッキーイケダ第2ビル4F	845-9620
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
杉本皮膚科	保土ヶ谷区川辺町2-2 ハイロッドハウス星川B-108	333-4422

小関産婦人科医院	旭区二俣川2-62-7	363-0660
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
市川宝クリニック	港北区綱島西1-11-18	543-1103
田ロメディカルクリニック	緑区台村町177-1 フォーサイト1F	932-0303
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニック センター北	都筑区中川中央1-29-24 アピテノール3C	914-6355
山本内科・タワーズ皮膚科	戸塚区品濃町535-2 中央街区D棟306	825-5871
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクスタイ3F	805-5808
高橋皮膚・泌尿器科医院	瀬谷区瀬谷3-19-2	301-3266

### 基幹病院定点(3)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	974-8143

### 病原体定点(16)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科(小児科)	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院(内科)	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科(眼科)	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック(小児科)	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
横浜市南部病院(基幹)	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院(基幹)	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
さいとう小児科(小児科)	磯子区岡村7-20-14	752-4882
石井内科医院(内科)	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック(小児科)	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科(小児科)	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はやし小児科医院(小児科)	青葉区松風台13-5	983-3254
昭和大学藤が丘病院(基幹)	青葉区藤が丘1-30	974-8143
内科・小児科むかひら医院(内科)	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
中条小児科医院(小児科)	栄区上之町8-7	892-2583
瀬谷こどもクリニック(小児科)	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
清水小児科(小児科)	瀬谷区阿久和西3-1-13	360-9191

疑似症定点(単独は72定点、内科定点57小児科定点88を加え217定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイズビル3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 フーガビル505号室	576-3370
鶴見皮ふ科泌尿器科	鶴見区鶴見中央4-2-14 マルハチビル3F	501-7181
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ビル一階	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあびる1F	488-5123
井関医院	神奈川区栄町6-1 ヨコハマポートサイトロア式番館1F	451-6864
朝日内科クリニック	神奈川区六角橋1-6-14 白楽メディカルセンター2F	439-3788
ななしまクリニック	神奈川区七島町161-5	401-9884
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
まつい内科医院	中区野毛町1-11-1 1F	243-3710
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前クリニックビル1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ッ川1-873-3	306-8026
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ビル3F	841-0133
後藤内科医院	港南区日野7-4-6	842-3664
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
山崎胃腸科内科クリニック	港南区港南台9-29-2	834-1243
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ヶ谷区川島町1404 くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ヶ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4 希望が丘センタービル2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
あさひ本宿クリニック	旭区本宿町90-30	360-8681
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
伊部皮膚科クリニック	磯子区磯子3-3-21 江戸徳ビル1F	751-8712
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22 三葉ビル	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
小谷クリニック	金沢区柴町349-1	781-7889
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9 クリニックビル2F	785-3912
とみおか診療所	金沢区富岡東6-1-3	773-7213
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3 斉木ビル2階	773-2212
清水医院	港北区菊名3-21-10	431-8425
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2 第7吉田ビル2・3F	546-8611
荻原医院	港北区太尾町308-25	531-3195

日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16 日吉教養センタービル2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19 福島クリニックビル3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107号	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームステプラザ十日市場西館101	989-6388
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10 アモンクール1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ヶ尾町1167-1 ラバーブル昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11 サンサーラあざみ野ビル3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16 メディカルモールたまプラーザB1F	910-5033
山口医院	都筑区中川1-5-9	912-2188
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ヶ崎南3-1-60 サ・グレイス2F	945-1112
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA1F	869-0311
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
内田クリニック	栄区桂台東20-16	893-2797
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉町3839-1 フォレストいずみ中央	806-5067
緑台クリニック	泉区緑園2-6-11	813-6333
稲葉内科クリニック	瀬谷区中央19-5	303-5616

# 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号（局長決裁）

最近改正 平成 20 年 5 月 12 日健健安第 270 号（局長決裁）

## 第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

## 第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

### 1 全数把握の対象

#### 一類感染症

(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病及び(7)ラッサ熱

#### 二類感染症

(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る）及び(12)鳥インフルエンザ（H5N1）

#### 三類感染症

(13)コレラ、(14)細菌性赤痢、(15)腸管出血性大腸菌感染症、(16)腸チフス及び(17)パラチフス

#### 四類感染症

(18)E 型肝炎、(19)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、(20)A 型肝炎、(21)エキノコックス症、(22)黄熱、(23)オウム病、(24)オムスク出血熱、(25)回帰熱、(26)キャサヌル森林病、(27)Q 熱、(28)狂犬病、(29)コクシジオイデス症、(30)サル痘、(31)腎症候性出血熱、(32)西部ウマ脳炎、(33)ダニ媒介脳炎、(34)炭疽、(35)つつが虫病、(36)デング熱、(37)東部ウマ脳炎、(38)鳥インフルエンザ（H5N1 を除く）、(39)ニパウイルス感染症、(40)日本紅斑熱、(41)日本脳炎、(42)ハンタウイルス肺症候群、(43)B ウイルス病、(44)鼻疽、(45)ブルセラ症、(46)ベネズエラウマ脳炎、(47)ヘンドラウイルス感染症、(48)発しんチフス、(49)ボツリヌス症、(50)マラリア、(51)野兎病、(52)ライム病、(53)リッサウイルス感染症、(54)リフトバレー熱、(55)類鼻疽、(56)レジオネラ症、(57)レプトスピラ症、(58)ロッキー山紅斑熱

## 五類感染症（全数）

(59)アメーバ赤痢、(60)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）、(61)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）、(62)クリプトスポリジウム症、(63)クロイツフェルト・ヤコブ病、(64)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(65)後天性免疫不全症候群、(66)ジアルジア症、(67)髄膜炎菌性髄膜炎、(68)先天性風しん症候群、(69)梅毒、(70)破傷風、(71)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(72)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(73)風しん、(74)麻しん

## 新型インフルエンザ等感染症

(100)新型インフルエンザ、(101)再興型インフルエンザ

## 2 定点把握の対象

### 五類感染症（定点）

(75)RSウイルス感染症、(76)咽頭結膜熱、(77)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(78)感染性胃腸炎、(79)水痘、(80)手足口病、(81)伝染性紅斑、(82)突発性発しん、(83)百日咳、(84)ヘルパンギーナ、(85)流行性耳下腺炎、(86)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、(87)急性出血性結膜炎、(88)流行性角結膜炎、(89)性器クラミジア感染症、(90)性器ヘルペスウイルス感染症、(91)尖圭コンジローマ、(92)淋菌感染症、(93)クラミジア肺炎（オウム病を除く）、(94)細菌性髄膜炎、(95)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(96)マイコプラズマ肺炎、(97)無菌性髄膜炎、(98)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(99)薬剤耐性緑膿菌感染症

## 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(102)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）若しくは(103)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

## 3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

### 二類感染症

(12)鳥インフルエンザ（H5N1）

## 第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センターとする。

## 第4 実施体制の整備

### 1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」

という。)を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び各区福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

## 2 指定届出機関（定点）

健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

## 3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

## 第5 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

##### イ 福祉保健センター

(ア) 当該届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

また、当該患者（四類感染症については、第2の(20)及び(50)を除く。また、全数把握対象の五類感染症については、第2の(59)、(61)、(63)、(64)、(65)、(67)、(68)、(70)、(71)、(72)、(73)又は(74)とする。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生研究所への提供について、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」を添付して依頼する。

(イ) 福祉保健センターは、オ(ア)により衛生研究所から検体の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（医療機関あて検査結果通知用）」により速やかに送付する。

#### ウ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、内容の点検等を行ったうえで、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、区内の関係機関に情報提供し連携を図る。

#### エ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### オ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（福祉保健センターあて結果通知用）」により福祉保健センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

## 2 定点把握対象の五類感染症

### (1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

### (2) 定点の選定

#### ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、人口及び医療機関の分布等を勘案してできるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

#### イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

### (3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

### (4) 実施方法

#### ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、ファクシミリにより福祉保健センターへ送付する。

#### イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、国が定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式「病原体定点からの検査依頼書」を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

#### ウ 福祉保健センター

福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報があれば、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。

#### エ 健康福祉局

福祉保健センターは、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、区内の関係機関に情報提供し連携を図る。

#### オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウにより患者情報の送付があり次第、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

#### カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式「病原体定点からの検査依頼書」及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式「病原体定点からの検査依頼書（医療機関あて検査結果通知用）」により病原体定点に通知するとともに、感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

### 3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

#### (1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

#### (2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、人口及び医療機関の分布等を勘案してできるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。

なお、疑似症定点の種類及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

#### (3) 実施方法

##### ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施する。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

## イ 健康福祉局

保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

## ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報があれば、健康福祉局へ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

## 5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

### (1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

### (2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

### (3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。検体を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

## 第6 その他

本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

なお、感染症発生動向調査事業については、本要綱に基づき実施することとし、結核発生動向調査事業については、従来の「横浜市結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき実施することとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

## 別記様式一覧表

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症  
検査票（病原体）（4枚複写式）

（医療機関控）

（福祉保健センター控）

（福祉保健センターあて検査結果通知用）

（医療機関あて検査結果通知用）

病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）

# 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 18 年 3 月 10 日 衛感第 10396 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

今月のトピックス

- インフルエンザは警報の水準を超え、集団かぜの報告が急増。
- レジオネラ症の報告が引き続き多く、死亡例の報告もあり。
- 水痘の報告が例年より多い。

平成 20 年 12 月 22 日から平成 21 年 1 月 25 日まで(平成 20 年第 52 週から平成 21 年第 4 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 12 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 20 及び 21 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 22 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 ~ 25 日

全数把握の対象

1 **レジオネラ症**:2009 年 1 月は 29 日現在で 5 例の報告がありました。

2008 年の累計報告数は 32 例(うち 31 例は肺炎型)と、これまでで最も多い報告数となっています。32 例の感染経路の内訳は、水系感染 10 例(うち温泉が疑われるもの 7 例)、塵埃感染 3 例、不明 19 例でした。

全国でも、2008 年の累計報告数は 891 例と、2007 年の 665 例を大きく上回っています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年)

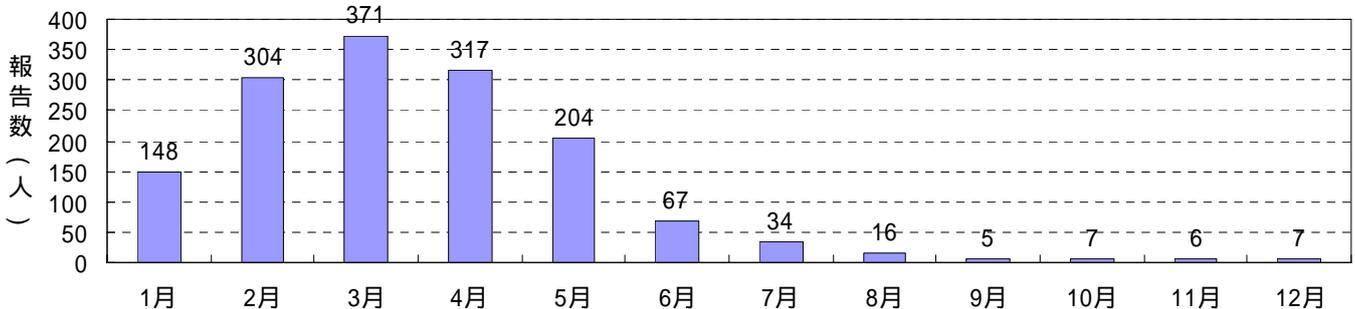
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	891
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	58
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	32

2 **麻疹**:2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

2009 年 1 月は 29 日現在で 6 例の報告がありました。

横浜市における 2008 年の累計報告数は 1486 例で、全国の報告数 11008 例の 13.5%でした。年齢別では、10 代(50.4%)が多く、予防接種前の 0 歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の 48.5%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数(2008年)



2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

横浜市の緊急対策は 2009 年 3 月 31 日で終了します。1 歳～高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

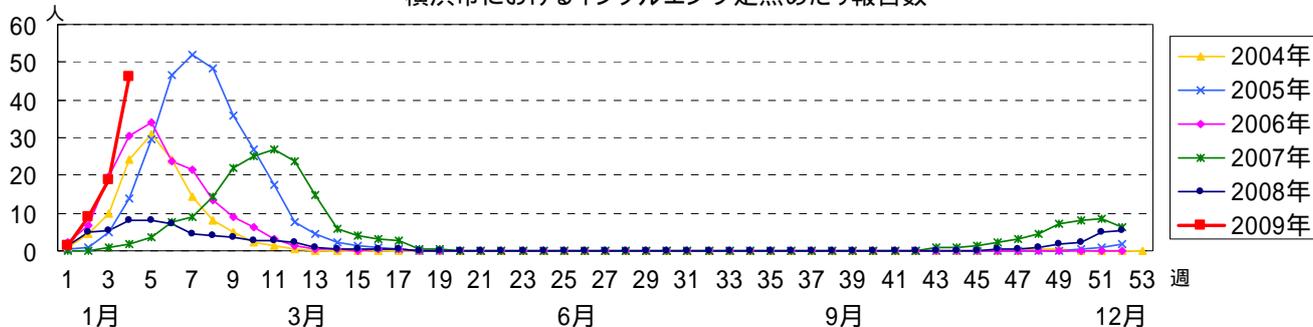
## 定点把握の対象

平成 20 及び 21 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 22 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 ~ 25 日

- 1 **インフルエンザ**: 今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 3 週に 18.74、第 4 週には 45.93 と警報水準の「30」を超えました。行政区別では、磯子区(65.86)、泉区(65.29)、都筑区(62.63)、緑区(62.50)、瀬谷区(61.17)、神奈川区(52.63)の順で多く報告されており、西区、中区以外の区は警報水準を超えています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 50.96、川崎市は 39.60、全国は 37.45 でした。

横浜市におけるインフルエンザ定点あたり報告数



迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 4 週に A 型 5145 件、B 型 320 件、A・B 共に陽性 10 件の報告がありました。また、2008 年第 47 週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて 69 件あり、その内訳は AH1(ソ連型)37 件(54%)、AH3(香港型)23 件(33%)、B 型 9 件(13%)となっています。

学校等における集団かぜは 2009 年 1 月 24 日までに施設閉鎖 4 施設(4 施設)、学年閉鎖 3 施設(3 学年)、学級閉鎖 31 施設(32 学級)の報告がありました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

- 2 **RSウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られますが、昨年は立ち上がり早く、第 37 週から増加の兆しが見られ、第 47 週に定点あたり 0.97 とピークとなり、その後減少し、2009 年第 4 週は 0.10 でした。行政区別では中区(3.00)が多く、金沢区、港南区からも報告があります。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 0.06、川崎市は 0.16、全国は 0.21 でした。
- 3 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第 34 週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第 49 週には定点あたり 2.52 となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し 2009 年第 4 週は 1.49 でした。行政区別では港北区(5.14)が高く、次いで緑区(3.00)、保土ヶ谷区(2.00)となっています。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 2.14、川崎市は 1.53、全国は 2.06 でした。
- 4 **感染性胃腸炎**: 昨年は、第 43 週から増加の兆しが見られ、第 51 週の定点あたり報告数は 18.51 と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009 年第 4 週は 6.21 で例年並みの水準です。行政区別では金沢区(9.50)、戸塚区(9.33)、港北区(9.29)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 7.68、川崎市は 10.06 と、どちらも横浜市より高い値です。全国は 8.58 でした。
- 5 **水痘**: 例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009 年第 2 週の定点あたり報告数は 3.67 と、過去 5 年間で最も高い値となりました。その後減少し第 4 週は 2.30 となりましたが、今後の動向に注意が必要です。行政区別では泉区(5.25)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 1.15、川崎市は 1.78、全国は 1.88 でした。
- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。
- 12 月は、11 月に比べて全体としては横ばいですが、女性の性器ヘルペスウイルス感染症がやや減少しました。19 歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で 1 例、淋菌感染症で 1 例、女性は性器クラミジア感染症で 2 例と、11 月に比べて減少しています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

- インフルエンザは減少傾向に転じています。
- インフルエンザ迅速診断用検査キットによる型別の集計では B 型が優勢になりました。
- MR ワクチン . . . 期及び横浜市緊急接種対象者には 3 月中の接種をお勧めください。

平成 21 年 1 月 19 日から 2 月 22 日まで(平成 21 年第 4 週から第 8 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 1 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表

第 4 週	1 月 19 ~ 25 日
第 5 週	1 月 26 ~ 2 月 1 日
第 6 週	2 月 2 ~ 8 日
第 7 週	2 月 9 ~ 15 日
第 8 週	2 月 16 ~ 22 日

全数把握の対象

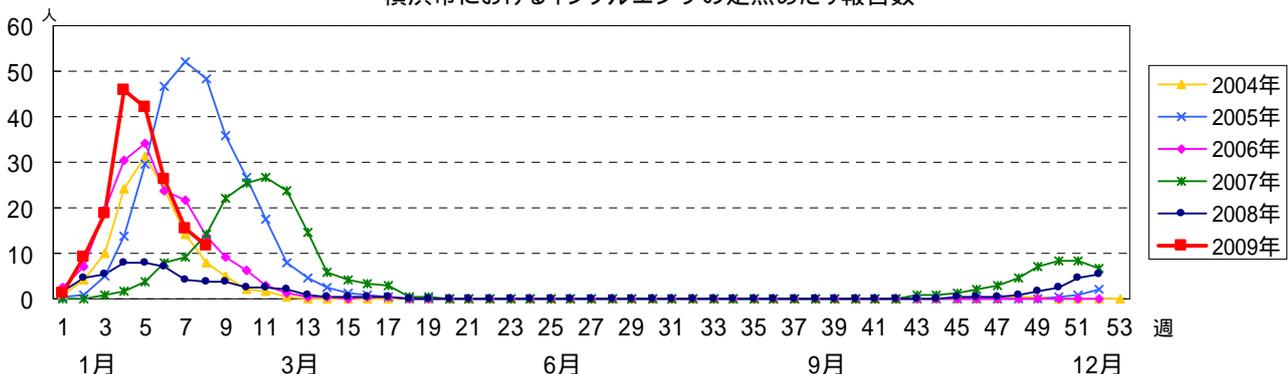
- 麻しん**: 2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 2009 年 2 月は 26 日現在で 5 例の報告があり、うち 3 例は予防接種を 1 回受けていました。  
 ひと月で 100 例以上の報告があった 2008 年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は予防接種を 2 回受けることが大切です。  
 2012 年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。  
**横浜市では、緊急対策として、未接種・未患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。**  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>  
**横浜市の緊急対策は 2009 年 3 月 31 日で終了します。**  
 1 歳～高校 3 年生に相当する年齢の未接種・未患者は、この機会に接種していただくことが重要です。  
 横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況」  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008 年～2012 年の 5 年間で、麻しん排除を目指します》  
 風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握  
 1 歳および就学前 1 年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底  
 5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

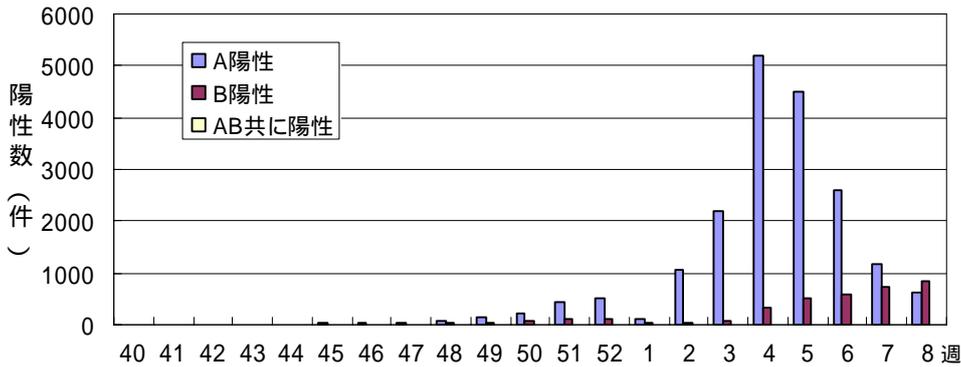
定点把握の対象

- インフルエンザ**: 今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え第 4 週に 45.98 と警報レベルの流行となりましたが、その後減少し、第 8 週は定点あたり報告数 11.54 となっています。行政区別では、都筑区(24.29)、瀬谷区(22.86)、泉区(20.00)、磯子区(15.00)、緑区(13.00)、保土ヶ谷区(12.13)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 11.88、川崎市は 10.04、全国は 12.05 でした。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における  
迅速診断用検査キットによる型別の判定



迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 8 週に A 型 610 件、B 型 853 件、A・B 共に陽性 7 件の報告があり、B 型が優勢になりつつあります。また、2008 年第 46 週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて 118 件あり、その内訳は AH1(ソ連型)62 件(52.5%)、AH3(香港型)33 件(28.0%)、B 型 23 件(19.5%)となっています。

学校等における集団かぜは 2009 年 2 月 21 日までに施設閉鎖 11 施設(11 施設)、学年閉鎖 13 施設(14 学年)、学級閉鎖 92 施設(122 学級)の報告がありました。

AH1(ソ連型)分離株は遺伝子解析を行った 51 株すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った 19 件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第 34 週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第 49 週には定点あたり 2.52 となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し 2009 年第 8 週は 1.47 でした。行政区別では港北区(5.00)が高く、次いで緑区(4.50)、保土ケ谷区(3.40)、港南区(2.40)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 2.28、川崎市は 3.39、全国は 2.15 でした。

平成 21 年 週 - 月日対照表

第 4 週	1 月 19 ~ 25 日
第 5 週	1 月 26 ~ 2 月 1 日
第 6 週	2 月 2 ~ 8 日
第 7 週	2 月 9 ~ 15 日
第 8 週	2 月 16 ~ 22 日

- 3 **感染性胃腸炎**: 昨年は、第 43 週から増加の兆しが見られ、第 51 週の定点あたり報告数は 18.51 と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009 年第 8 週は 4.88 となりましたが、ノロウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では港北区(8.29)、戸塚区(7.67)、緑区(7.50)、西区(7.33)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 5.56、川崎市は 6.67、全国は 7.04 と、いずれも横浜市より高い値です。
- 4 **水痘**: 例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009 年第 2 週の定点あたり報告数は 3.67 と、過去 5 年間で最も高い値となりました。その後減少し、第 8 週は 1.95 と、現在は例年並みの水準で推移しています。これから春にかけて例年流行しますので、注意が必要です。行政区別では泉区(5.75)、瀬谷区(4.50)、都筑区(3.80)、緑区(3.50)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 1.51、川崎市は 1.36、全国は 1.68 でした。
- 5 **性感染症**: 性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

1 月は、2008 年 12 月に比べて全体としては横ばいですが、尖圭コンジローマが昨年の同時期と比べて多くなっています。19 歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で 1 例、性器ヘルペスウイルス感染症で 1 例、淋菌感染症で 1 例、女性は性器クラミジア感染症で 2 例、淋菌感染症で 1 例と、多くはありませんが、女性の性器クラミジア感染症に 10 ~ 14 歳の感染者もあり、低年齢化が懸念されます。

2 月 18 日に発表された厚生労働省エイズ動向委員会報告によりますと、2008 年の年間報告の速報値は、国内で新たに報告された HIV 感染者数は 1113 人、エイズ発症者数は 432 人でともに過去最高で、HIV 感染者は 6 年連続、エイズ発症者は 3 年連続の増加でした。

(エイズ動向委員会報告 [http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/mhw\\_survey.htm](http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/mhw_survey.htm))

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

- インフルエンザは再度増加しましたが、現在は減少傾向が見られています。
- インフルエンザ迅速診断用検査キットによる型別の集計ではほとんどが B 型です。
- 2008 年度の 12 月末現在の MR ワクチン接種率は、第 1 期 63.9%、第 2 期 63.5%、第 3 期 45.0%でした。対象者には早期の接種をお勧めください。

平成 21 年 2 月 16 日から 3 月 22 日まで(平成 21 年第 8 週から第 12 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 2 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

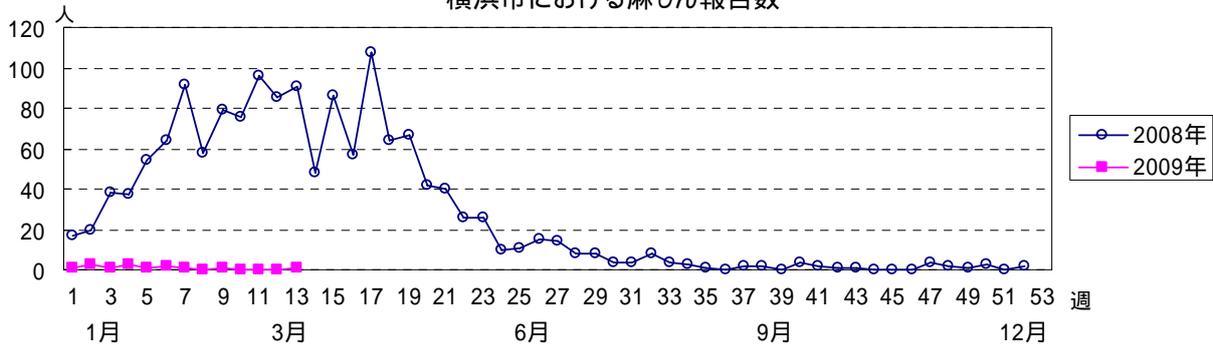
平成 21 年 週 - 月日対照表

第 8 週	2 月 16 ~ 22 日
第 9 週	2 月 23 ~ 3 月 1 日
第 10 週	3 月 2 ~ 8 日
第 11 週	3 月 9 ~ 15 日
第 12 週	3 月 16 ~ 22 日

全数把握の対象

- 1 麻しん:2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 2009 年 3 月は 26 日現在で 1 例の報告があり、予防接種を 1 回受けていました。  
 ひと月で 100 例以上の報告があった 2008 年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は予防接種を 2 回受けることが大切です。

横浜市における麻しん報告数



横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

2012 年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻しん排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1 歳および就学前 1 年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底

5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

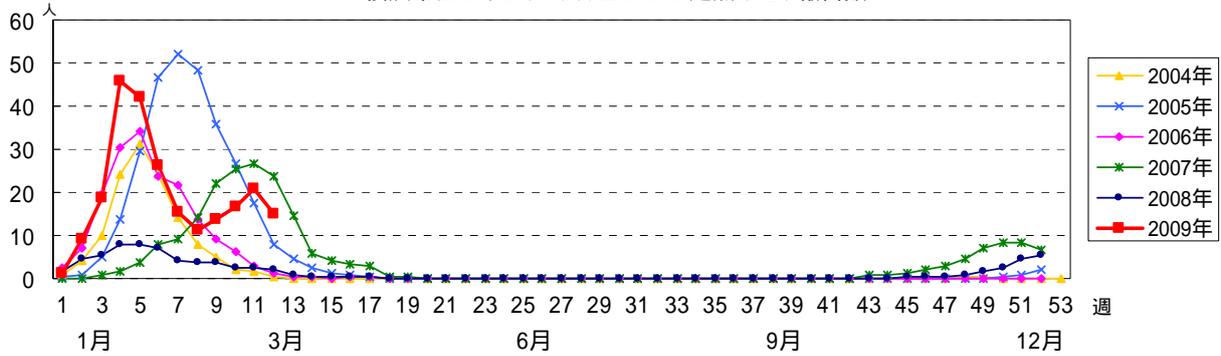
定点把握の対象

- 1 インフルエンザ:今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 3 週に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第 4 週にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。

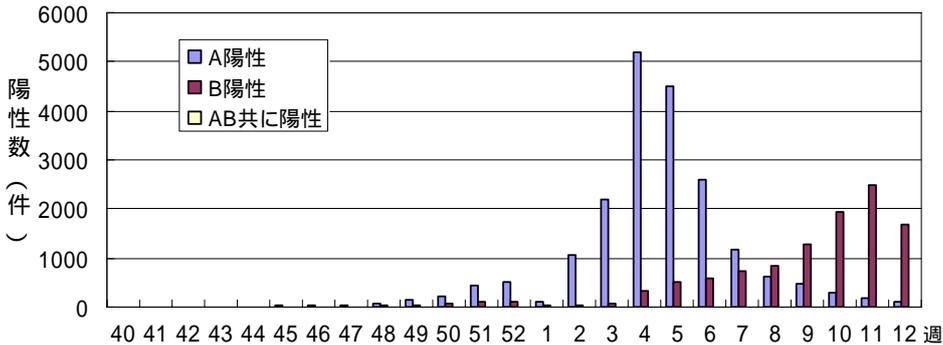
その後は減少しましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週はさらに増加して定点あたり報告数 20.69 となりました。第 12 週は 14.94 と減少しています。行政区別では、磯子区(28.40)、緑区(23.00)、泉区(23.00)、港南区(22.25)、都筑区(20.63)、栄区(18.80)、青葉区(16.00)、西区(15.60)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません。神奈川県(横浜、川崎を除く)は 15.53、川崎市は 13.40、全国は 15.63 でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 12 週に A 型 105 件、B 型 1673 件、A・B 共に陽性 11 件の報告があり、B 型が優勢です。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



また、2008 年第46週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて217件あり、その内訳は AH1(ソ連型)106件(48.8%)、AH3(香港型)44件(20.3%)、B型67件(30.9%)となっています。

学校等における集団かぜは2009年3月21日までに施設閉鎖12施設(12施設)、学年閉鎖20施設(21学年)、学級閉鎖141

施設(197学級)の報告がありました。

AH1(ソ連型)分離株は遺伝子解析を行った86件すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った32件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し2009年第12週は1.81でした。行政区別では港北区(6.14)が高く、次いで保土ヶ谷区(3.60)、泉区(2.50)、瀬谷区(2.50)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.36、川崎市は1.55、全国は2.32でした。
- 3 **感染性胃腸炎**: 昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第12週は5.20となりましたが、ノロウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では瀬谷区(11.50)、緑区(11.00)、港北区(7.86)、泉区(7.75)、戸塚区(7.17)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は6.79、川崎市は6.94、全国は7.49と、いずれも横浜市より高い値です。
- 4 **水痘**: 例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し、第12週は1.76と、現在は例年並みの水準で推移しています。例年、春にかけて流行しますので注意が必要です。行政区別では泉区(4.75)、瀬谷区(4.50)、都筑区(3.80)、緑区(2.67)、戸塚区(2.00)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.25、川崎市は1.24、全国は1.65でした。
- 5 **性感染症**: 性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。2月は、1月に比べて全体としては横ばいですが、淋菌感染症がやや増加しています。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

- インフルエンザは終息傾向にあります。
- 2008 年 4 月～12 月の MR ワクチン接種率は、第 1 期 63.9%、第 2 期 63.5%、第 3 期 45.0% でした。2009 年度対象者には早期の接種をお勧めください。
- 伝染性紅斑が例年よりやや高めの水準です。

平成 21 年 3 月 23 日から 4 月 19 日まで(平成 21 年第 13 週から第 16 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 3 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

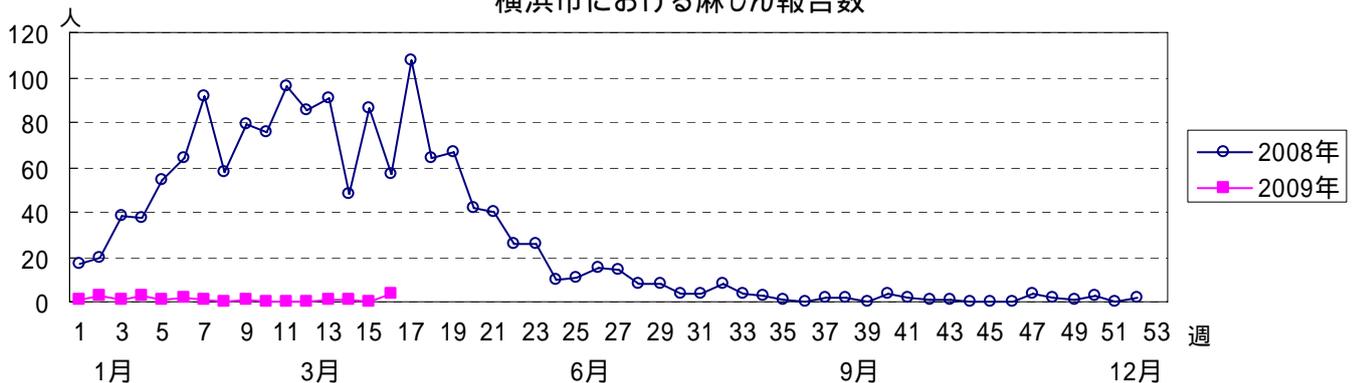
平成 21 年 週 - 月日対照表

第 13 週	3 月 23 ~ 29 日
第 14 週	3 月 30 日 ~ 4 月 5 日
第 15 週	4 月 6 ~ 12 日
第 16 週	4 月 13 ~ 19 日

全数把握の対象

- 1 **麻疹**: 2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 2009 年 4 月は 22 日現在で 6 例の報告があり、4 例は予防接種を 1 回受けていました。

横浜市における麻疹報告数



ひと月で100例以上の報告があった2008年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、予防接種を 1 回受けていても、麻疹にかかっていない方は予防接種を生涯 2 回受けることが大切です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

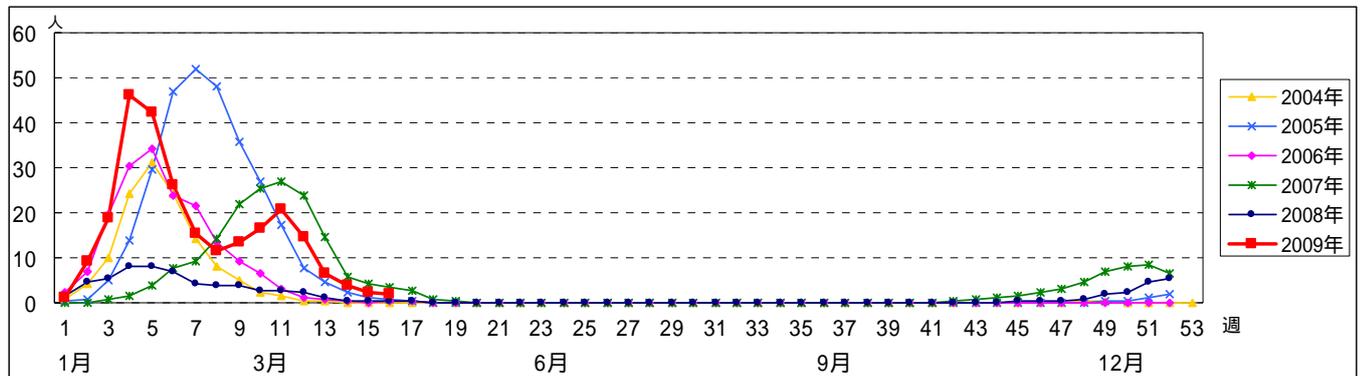
(日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します)

麻疹とともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握  
 1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風疹混合ワクチンによる 2 回接種の徹底  
 5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

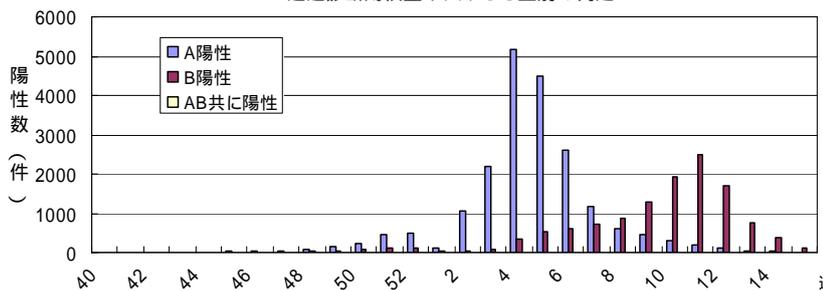
定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 3 週に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第 4 週にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。  
 その後は減少しましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週に定点あたり報告数 20.69 となりました。その後減少し、第 16 週は 1.78 と警報解除の水準となりました。行政区別では、港北区(3.90)、緑区(3.20)、神奈川区(3.17)の順で多く報告されています。神奈川県は 2.36、東京都は 3.46、全国は 4.1 でした。  
 迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 4 週をピークに減少し第 16 週には A 型 36 件、B 型 145 件、

A・B共に陽性4件の報告で、B型が優勢です。



横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



また、2008年第46週以降、病原体定点の検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて188件あり、その内訳はAH1(ソ連型)77件(41%)、AH3(香港型)41件(22%)、B型70件(37%)となっています。

AH1(ソ連型)分離株(病原体定点及び集団かぜ)は遺伝子解析を行った96件すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株(病原体定点及び集団かぜ)は、遺伝子解析を行った35件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました(4月22日現在)。

- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:** 昨年は、過去5年間で最も高い水準で推移していましたが、今年に入ってから例年並みの水準で推移しており、第16週は1.54でした。行政区別では緑区(6.00)が高く、次いで瀬谷区(2.75)、港北区(2.71)となっています。神奈川県は1.68、東京都は1.5、全国は1.91でした。
- 3 **感染性胃腸炎:** 昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第16週は5.87となりましたが、依然ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では港南区(13.0)、旭区(10.80)、港北区(10.71)が高くなっています。神奈川県は6.93、東京都は7.34、全国は8.48と、いずれも横浜市より高い値です。
- 4 **水痘:** 例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し、第16週は1.59と、現在は例年並みの水準で推移しています。例年、初夏にかけて流行しますので注意が必要です。行政区別では港南区(3.00)、泉区(2.75)、瀬谷区(2.75)が高くなっています。神奈川県は1.58、東京都は1.08、全国は1.58でした。
- 5 **伝染性紅斑:** 例年並みの水準で推移していましたが、第13週から増加し、第16週は定点あたり0.53と、例年より高めの水準となっています。全国では、過去5年間の同時期と比較して低い水準で推移しており、第16週は定点あたり0.12でした。例年、6月頃が一番高いようですので、今後の動向には注意が必要です。
- 6 **性感染症:** 性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。  
3月は、2月に比べて全体としては横ばいですが、性器クラミジア感染症がやや減少しています。19歳以下の若年層については、男性は性器ヘルペスウイルス感染症で2例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

- 季節性インフルエンザとしては、市内では B 型及び AH3(香港型)の検出がわずかにみられています。
- 伝染性紅斑が例年よりやや高めの水準です。

平成 21 年 4 月 20 日から 5 月 24 日まで(平成 21 年第 17 週から第 21 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 4 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

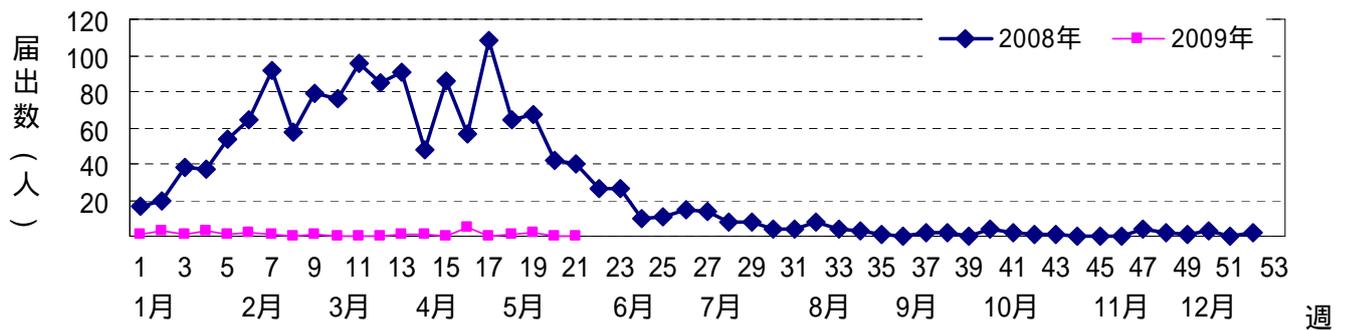
平成 21 年 週 - 月日対照表

第 17 週	4 月 20 ~ 26 日
第 18 週	4 月 27 日 ~ 5 月 3 日
第 19 週	5 月 4 ~ 10 日
第 20 週	5 月 11 ~ 17 日
第 21 週	5 月 18 ~ 24 日

全数把握の対象

- 1 麻しん:2008 年から感染症法における 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)  
 2009 年 5 月は 27 日現在で 3 例の報告があり、3 例とも予防接種を 1 回受けていました。

週別届出数の推移



ひと月で100例以上の報告があった2008年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、予防接種を 1 回受けていても、麻しんにかかっていない方は予防接種を生涯 2 回受けることが大切です。

2012 年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

(日本は、2008年～2012年の5年間で、麻しん排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握  
 1 歳および就学前 1 年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底  
 5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

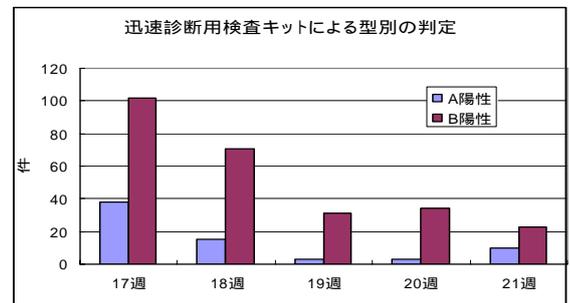
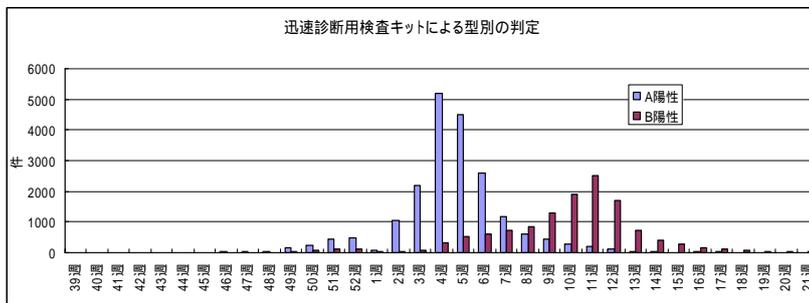
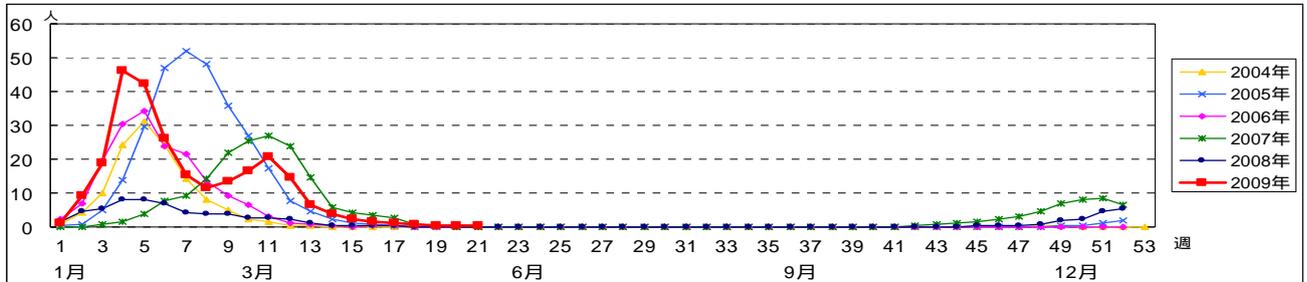
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:5 月の報告数は、27 日現在で 4 例です。今年に入って 13 例の報告があり、血清型の内訳は O157 が 8 例、O26 が 2 例、O111 が 1 例、O145 が 1 例、不明が 1 例で、性別の内訳は、男性 11 例、女性 2 例で、年齢の内訳は、10 歳未満が 3 例、10 代が 6 例、30 代が 2 例、40 代が 2 例と、10 代がもっとも多くなっています。毎年、夏に報告が多くなりますので、注意が必要です。例年レバ刺し生食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

## 定点把握の対象

1 **インフルエンザ**:今シーズンは、過去5年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009年第4週に流行のピークとなりましたが、第9週から再び増加に転じ、第11週にもピークとなり、二峰性となりました。迅速診断用検査キットによる型別の集計から、第一のピークはインフルエンザA型、第二のピークはインフルエンザB型が流行が中心である可能性が推察されました。第21週は定点あたり報告数は0.32となりました。行政区別では、磯子区(1.43)、神奈川区(1.14)の順で多く報告されています。川崎市は0.26、神奈川県(横浜、川崎除く)は1.17、全国は1.25でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第4週をピークに減少し第21週にはA型11件、B型23件の報告です。迅速診断検査数に占める陽性率は66%をピークに5%以下に減少しています。



また、今シーズンのインフルエンザA型ではAH1(ソ連型)が優位でしたが、4月28日以降に新型インフルエンザに関連して行った発熱外来等の検体からの季節性インフルエンザウイルスの検出数の内訳はAH1(ソ連型)2件、AH3(香港型)61件となっています。

2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:昨年は、過去5年間で最も高い水準で推移していました。今年に入ってから例年並みの水準ですが、第21週は2.51と増加傾向にありますので、注意が必要です。行政区別では港北区(7.71)が高く、次いで保土ヶ谷区(6.25)、瀬谷区(5.75)となっています。川崎市は2.64、神奈川県(横浜、川崎除く)は1.77、全国は2.3でした。

3 **感染性胃腸炎**:昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第21週は4.66となりました。集団感染の報告はほとんどなくなりました。行政区別では瀬谷区(12.0)、港北区(7.14)、南区(7.0)が高くなっています。川崎市は7.12、神奈川県(横浜、川崎除く)は5.67、全国は6.81と、いずれも横浜市より高い値です。

4 **伝染性紅斑**:例年並みの水準で推移していましたが、第13週から増加し、第21週は定点あたり1.06と、例年より高めの水準となっています。川崎市は2.27でした。全国では、過去5年間の同時期と比較して低い水準で推移していて、第21週は定点あたり0.21でした。例年、6月頃が一番高いようですので、今後の動向には注意が必要です。

5 **性感染症**:性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

4月は、3月に比べて全体としては横ばいですが、性器クラミジア感染症は男性がやや増加し、女性がやや減少しています。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症が2例、淋菌感染症が1例、女性は性器クラミジア感染症が2例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

平成 21 年 6 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 21 年 6 月 25 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

- 新型インフルエンザが市内で 26 例報告されました(6 月 24 日現在)。
- 伝染性紅斑が過去 5 年間で最も高い水準です。
- 手足口病、ヘルパンギーナといった夏の感染症が増えました。

### 平成 21 年 週 - 月日対照表

平成 21 年 5 月 18 日から 6 月 21 日まで(平成 21 年第 21 週から第 25 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 5 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

第 21 週	5 月 18 ~ 24 日
第 22 週	5 月 25 ~ 31 日
第 23 週	6 月 1 日 ~ 7 日
第 24 週	6 月 8 ~ 14 日
第 25 週	6 月 15 ~ 21 日

### 全数把握の対象

1 **新型インフルエンザ**:6 月 6 日に、市内 1 例目の発生があり、6 月 24 日現在で 26 例の発生報告があります。性別の内訳は、男性 11 例、女性 15 例で、年齢の内訳は、10 歳未満が 6 例、10 代が 4 例、20 代が 5 例、30 代が 6 例、40 代が 3 例と、50 代が 2 例と若い人が多くなっています。海外渡航歴のあるものが 17 例です。重症例はありません。全国では、24 日現在 944 例の報告があります。また、横浜市衛生研究所で 4 月 28 日以降に新型インフルエンザに関連した検査を 542 件行いましたが、インフルエンザウイルスの検出数の内訳は新型インフルエンザ 27 件(1 件は横浜市外)、AH1(ソ連型)4 件、AH3(香港型)102 件となっています。

(横浜市新型インフルエンザ関連情報 <http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/kikikanri/influenza/>)

2 **麻疹**:2009 年 6 月は 24 日現在で 1 例の報告があり、予防接種を 1 回受けていました。

ひと月で 100 例以上の報告があった 2008 年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、予防接種を 1 回受けていても、麻疹にかかっていない方は予防接種を生涯 2 回受けることが大切です。

2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

(日本は、2008 年 ~ 2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

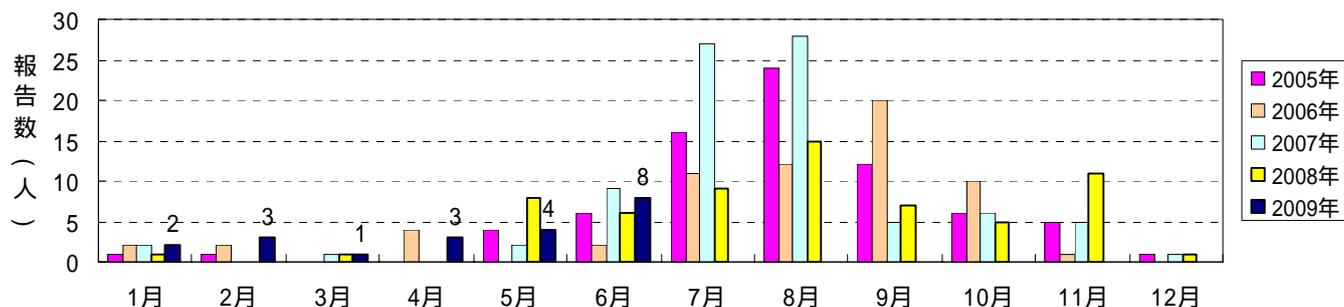
1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底  
5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

3 **腸管出血性大腸菌感染症**:6 月の報告数は、24 日現在で 8 例です。今年に入って 21 例の報告があり、血清型の内訳は O157 が 12 例、O26 が 2 例、O111 が 2 例、O121 が 2 例、O145 が 1 例、O103 が 1 例、不明が 1 例で、性別の内訳は、男性 14 例、女性 7 例で、年齢の内訳は、10 歳未満が 4 例、10 代が 8 例、20 代が 1 例、30 代が 3 例、40 代が 2 例、60 代が 3 例と、10 代がもっとも多くなっています。毎年、夏に報告が多くなりますので、注意が必要です。例年レバーの生食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



## 定点把握の対象

- (季節性)インフルエンザ:**今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 4 週に流行のピークとなりましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週にもピークとなり、二峰性となりました。第 25 週は定点あたり報告数は 0.08 となりました。報告のあったのは 6 区のみです。川崎市は 0.07、神奈川県(横浜、川崎除く)は 0.10、全国は 0.24 でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 4 週をピークに減少し第 25 週には A 型 3 件(うち新型インフルエンザ 1 件)、B 型 3 件の報告です。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎:** 昨年は、過去 5 年間で最も高い水準で推移していました。今年に入ってから例年並みの水準ですが、第 25 週は 2.61 と高めで推移しており、注意が必要です。行政区別では港北区(8.57)が高く、次いで保土ヶ谷区(5.40)、瀬谷区・都筑区(4.00)となっています。川崎市は 2.27、神奈川県(横浜、川崎除く)は 1.92、全国は 1.99 でした。
- 手足口病:** 第 25 週は定点あたり 0.79 と、増加の兆しが見られます。例年夏にかけて増加してくることから、今後の動向に注意が必要です。川崎市は 0.61、神奈川県(横浜、川崎除く)は 0.10、全国は 0.36 と、いずれも横浜市より低い値です。
- 伝染性紅斑:** 例年並みの水準で推移していましたが、第 13 週から増加し、第 25 週は定点あたり 1.44 と、過去 5 年間で最も高い水準で推移しています。川崎市は 2.12 でした。全国では、過去 5 年間の同時期と比較して低い水準で推移していて、第 25 週は定点あたり 0.22 でした。例年、6 月頃が一番高いようですので、今後の動向には注意が必要です。
- ヘルパンギーナ:** 第 25 週は定点あたり 0.60 と、増加の兆しが見られます。川崎市は 0.36、神奈川県(横浜、川崎除く)は 0.25、全国は 0.41 と、いずれも横浜市より低い値です。例年、6 月末～7 月にピークを迎えるため、これからの季節は注意が必要です。
- 性感染症:** 性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。5 月は、4 月に比べて全体としては横ばいです。19 歳以下の若年層については、すべて女性で、性器クラミジア感染症が 3 例、尖圭コンジローマが 2 例、淋菌感染症が 1 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

平成 21 年 7 月期

## 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 21 年 7 月 30 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(754)9816

### 今月のトピックス

- 新型インフルエンザが市内で 246 例報告されました(7月30日13時現在)。
- 腸管出血性大腸菌感染症が増えています。レバーや牛肉の生食に気をつけましょう。
- 手足口病、ヘルパンギーナといった夏の感染症が増えてきました。
- 伝染性紅斑が過去 5 年間で最も高い水準でしたが、落ち着いてきました。

平成 21 年 6 月 22 日から 7 月 26 日(平成 21 年第 26 週から第 30 週)まで。ただし、性感染症については平成 21 年 6 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 全数把握の対象

1 **新型インフルエンザ**:市内 1 例目の発生が 6 月 6 日にあり、7 月 16 日まで全数調査を行いました。横浜市衛生研究所で、7 月 16 日の検体まで延べ 1079 件の検査を行いました。内訳は 240 件が s/wAH1(新型インフルエンザ)、4 件が AH1(ソ連型)、111 件が AH3(香港型)でした。その後、7 月 30 日昼までに、更に 8 件検査を行い、内 6 件が新型でした。市内では、迅速診断キット A(+ )に占める新型インフルエンザの割合が高くなっています。国内の患者数は、7 月 30 日現在 5,022 人です。全世界の患者数は、7 月 30 日現在 175,785 人で、内 1,116 人が死亡していますが、今のところ市内では重症例は見られていません。今後、重症者情報(入院情報)、集団発生情報(クラスター情報)、病原体情報に注意が必要です。

横浜市新型インフルエンザ関連情報

<http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/kikikanri/influenza/>

2 **腸管出血性大腸菌感染症**:7 月の報告数は、29 日現在で 29 例と増加しています。血清型の内訳は O157 が 28 例で、その内 1 例に O165 が重複感染していました。O26 が 1 例でした。3 歳から 73 歳まで幅広い年齢層で見られ、判明した感染経路は、焼肉店でのレバー刺、牛肉の生食等でした。例年夏に多く見られますので、この時期は、特にレバーは火を通して食し、家庭では、食材の取り扱いに注意し、手洗い、調理器具の洗浄、生肉は、中心温度 75 度以上で 1 分間以上加熱するなど心がけましょう。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

3 **細菌性赤痢**:ゾンネが 1 例見られました。渡航歴はありません。

4 **麻疹**:7 月は 29 日現在で 8 例の報告が見られました。うち 3 例は同一家族の感染でした。予防接種歴は、3 例に接種歴がありましたが、1 回だけの接種でした。2 例は接種歴不明で、3 例は接種歴が無く、その内の 2 例は罹患歴がありました。平成 19 年より麻疹の定期予防接種は 2 回となっています。今後、予防接種の徹底が望まれます。

麻疹に関する特定感染症予防指針

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/dl/s0903-8l.pdf>

(日本は、2008 年～2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します)

麻疹・風しんは全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握しています。  
1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底  
5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

国立感染症研究所ホームページ

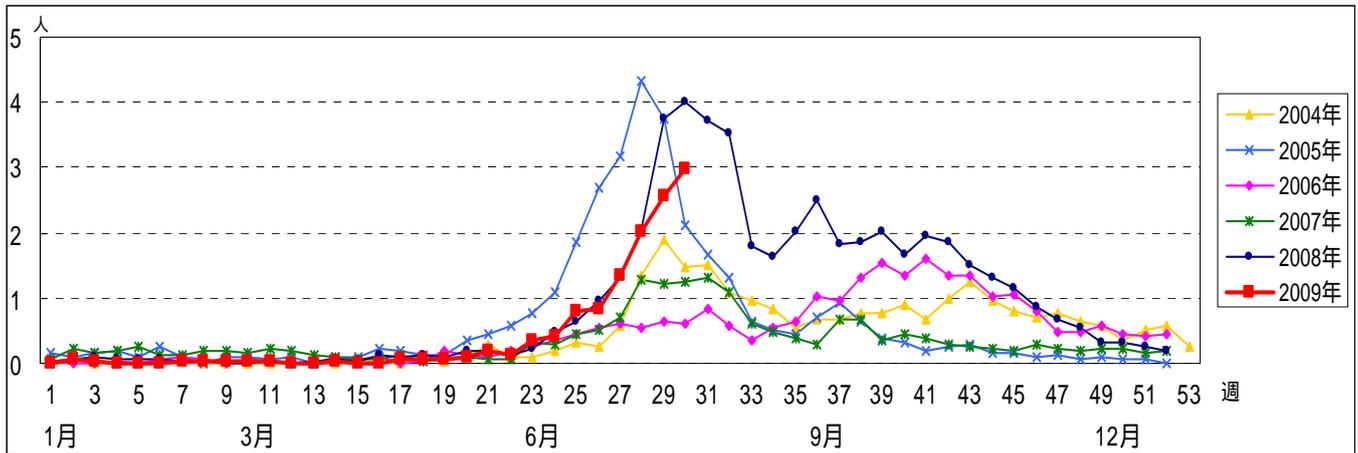
<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

5 **風疹**:ワクチン接種歴のある成人が 1 例見られました。

## 定点把握の対象

- 1 **(季節性)インフルエンザ**:今シーズンは、2008 年第 49 週に流行の目安となる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 4 週に流行のピークとなりましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週にもピークとなる二峰性になりました。第 30 週は定点あたり報告数が 0.14 となりました。報告のあったのは 12 区です。行政区別では、西区が 0.5、都筑区が 0.4 と続きます。川崎市は 0.07、神奈川県(横浜、川崎除く、以下県域)は 0.09、全国は 0.28 でした。市内における新型インフルエンザの発熱外来での全数調査が、7 月 16 日をもって中止されたために、今後季節性インフルエンザの報告数に新型インフルエンザも含まれますので、報告数の推移に更なる注意が必要です。
- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:昨年は、過去 5 年間で最も高い水準で推移していましたが、今年に入ってから例年並みの水準ですが、第 24 週の 2.81 から下り坂で、第 30 週は 1.36 と落ち着いています。行政区別では、港北区が 8.14 と高く、中区 2.33、保土ヶ谷区 1.80 と続きます。川崎市は 1.33、神奈川県(県域)は 0.77、全国は 0.87 でした。
- 3 **手足口病**: 6 月に入って増加を始め、第 30 週には 3.00 と、過去 5 年間で 2 番目に高い水準となっています。例年夏にかけて増加してくることから、今後の動向に注意が必要です。行政区別では、栄区 13.33、泉区 9.50、港南区 8.50、瀬谷区 4.75 となっています。川崎市は 2.28、神奈川県(県域)は 1.20、全国は 1.50 と、いずれも横浜市より低い値です。

定点あたりの手足口病月別報告数



- 4 **伝染性紅斑**:例年並みの水準で推移していましたが、第 13 週から増加し、第 28 週は定点あたり 1.74 と、過去 5 年間で最も高い水準でしたが、第 30 週には 0.77 と落ち着きを見せています。川崎市は 1.09 と横浜より高いのですが、神奈川県(県域)は 0.59、全国では 0.14 であり、横浜市より低い値です。
- 5 **ヘルパンギーナ**:2009 年は当初から過去 5 年間で最も低い水準で推移していましたが、第 25 週には定点あたり 0.67 と、増加の兆しが見られ、第 30 週には 3.00 でした。行政区別では、瀬谷区 8.75、緑区 8.75、港北区 5.86、泉区 5.75 と続きます。川崎市は 2.55、神奈川県(県域)は 1.66、全国は 2.28 と、いずれも横浜市よりやや低い値です。
- 6 **性感染症**:性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。6 月は、5 月に比べて全体としては横ばいです。性器クラミジア他 31 例、尖圭コンジローマが 21 例、性器ヘルペス感染症が 12 例、淋菌感染症が 17 例でした。男女とも 20 歳から 44 歳にほぼ集中して見られ、25 歳から 35 歳が特に多くなっていますが、性器ヘルペス感染症は、60 歳代と 70 歳代に各 1 例見られました。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

今期は、非常に早く、盛夏の時期に、インフルエンザの流行期に入りました。  
 新型インフルエンザのクラスター(集団発生)報告が、保育園、小学生、中高校、大学校等、学童・保育所、部活動や合宿を中心に見られています。  
 HBVによる急性肝炎の家族内発生が見られました。比較的日本に少ない genotype A e によるものでした。今後 genotype の違いによる臨床像の、更なる調査研究が必要です。  
 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症は減少傾向です。  
 病原体定点からの手足口病では、全てエンテロウイルス 71 が検出されています。

平成 21年 7 月 20 日から平成 21 年 8 月 23 日まで(第 30 週から第 34 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 7 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

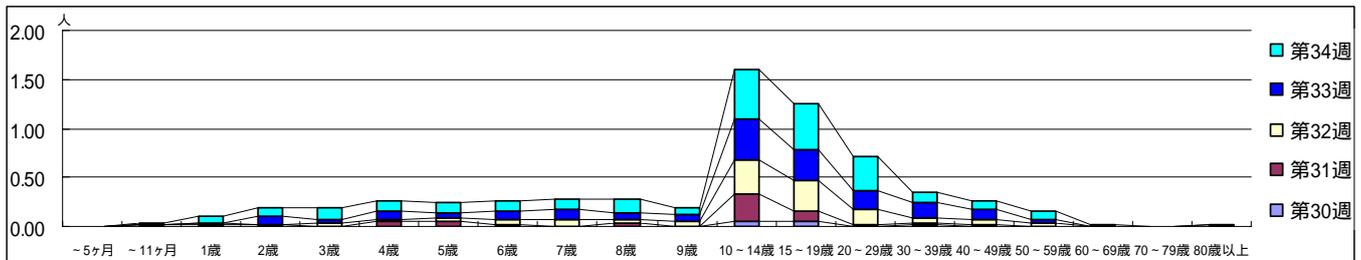
平成 21年 週 - 月日対照表

第 30 週	7 月 20 日 ~ 7 月 26 日
第 31 週	7 月 27 日 ~ 8 月 2 日
第 32 週	8 月 3 日 ~ 9 日
第 33 週	8 月 10 日 ~ 16 日
第 34 週	8 月 17 日 ~ 23 日

【新型インフルエンザサーベイランス】

クラスター報告: 新型インフルエンザのクラスター報告は、7 月 24 日から 8 月 23 日の間に 28 件あり、確定患者・疑似症が今のところ 101 人です。集団の属性としては、保育園 5、小学生対象学童等施設 1、中高校 16、大学 4、医療機関 1、その他 1 となっています。学校での集団は部活動や合宿がある、中高校・大学を中心に見られており、今後、夏休みが終わって学校が始まると、小学校も含めた感染の急速な拡大の恐れがあります。

参考 年齢層別 5 週分集計



【全数把握の対象】

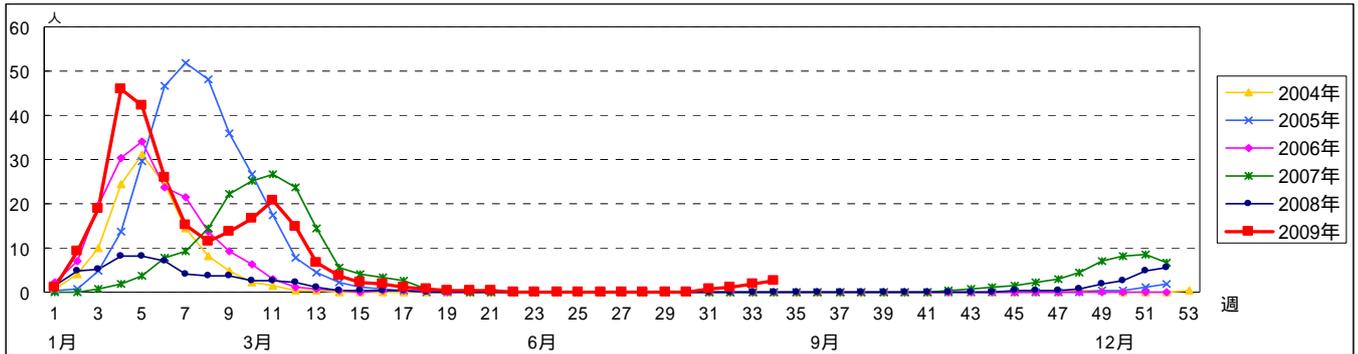
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 8 月の報告数は、26 日現在で 8 件(うち 1 件は診断は 7 月)と、前月より減少していますが、例年夏に多いので、これからの季節もまだ注意が必要です。生肉(生レバー等)や生焼けの肉の喫食は避けましょう。
- 麻疹:** 8 月の報告数は、26 日現在で 2 件でした。1 歳児と 2 歳児が罹患し、予防接種歴は 2 件とも MR を 1 回接種済みです。今後も、接種対象年齢における迅速な予防接種が勧められます。
- ウイルス性肝炎(B 型):** 三世代家族内に感染が認められました。日常生活の範囲内の接触しか認められていません。3 人とも同じ genotype を示し、比較的今まで日本に少なかった Ae でした。今後 genotype による臨床像の違いに注意が必要です。尚、急性肝炎は、A 型と E 型は、感染症予防法の 4 類として直ちに届出が、E 型、A 型を除くウイルス性の急性肝炎は、5 類感染症として、7 日以内に全数の届出を義務付けられています。  
 参考 わが国における急性 B 型肝炎の現状 IASR <http://idsc.nih.go.jp/iasr/27/319/dj3191.html>
- その他** 細菌性赤痢が 1 件(推定感染地インド)、デング熱が 1 件(推定感染地ラオス)、A 型肝炎が 1 件(推定感染地韓国)、ライム病 1 件(推定感染地は北海道)。夏季の旅行者は感染症に注意が必要と思われます。

## 【定点把握の対象】

- 1 **インフルエンザ**: 流行期に入りました。横浜市では、第 32 週に流行の目安となる定点あたりの報告数 1 を越えていましたが、第 33 週で 1.78、第 34 週では 2.58 と更に上昇しています。第 32 週から第 34 週までの 3 週間の迅速キットの合計では、412 件が A 型陽性、5 件が B 型陽性、2 件が A 型 B 型ともに陽性でした。病原体定点からのウイルス検出は、9 検体全て swAH1 でした。

今まで行った swAH1 の遺伝子解析では、すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異を認めましたが、オセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異は認めていません。第 34 週の行政区別情報は、栄区で 5.50、西区で 4.20、神奈川区 3.86、港南区 3.83 です。流行の目安の 1 に達していなかったのは港北区 1 区のみでした。神奈川県(横浜川崎を除く県域、以下県域)では 3.16、川崎市は 2.67 全国では 2.47 でした。

また、7 月 24 日から 8 月 23 日の集団(クラスター)報告については、前頁新型インフルエンザサーベイランス報告をご覧ください。



- 2 **咽頭結膜熱**: 流行は見られません。第 28 週をピークに減少していて、第 34 週では 0.08 と、過去 5 年間で最も低い数値となっています。神奈川県県域では 0.08、川崎市は 0.10、全国は 0.19 でした。
- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 流行は見られません。低い数値で推移しています。第 24 週のピーク以降減少し、第 34 週では 0.27 でした。神奈川県県域では 0.41、川崎市は 0.20、全国は 0.52 でした。
- 4 **手足口病**: 第 31 週の 3.00 を頂点として減少し、第 34 週では 1.40 と半減していますが、まだやや流行が見られています。神奈川県県域では 1.19、川崎市は 1.67、全国は 1.29 でした。夏の時期の市内病原体定点からの検出は、全てエンテロウイルス 71 でした。エンテロウイルス 71 は、他のウイルスより中枢神経系合併症等重症例が多いので注意が必要です。  
参照 国立感染症情報センター 手足口病 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/25/295/tpc295-j.html>
- 5 **ヘルパンギーナ**: 第 32 週の 3.40 をピークに減少し、第 34 週では、1.10 と減少しています。行政区別では、瀬谷区が 4.33、青葉区、緑区、港南区が 2.00 です。神奈川県県域では 1.30、川崎市は 1.93、全国は 1.58 でした。

- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

7 月は、6 月に比べて横ばい傾向です。例年の傾向と同じです。性器クラミジア感染症が 32 件(男性 12、女性 20)、性器ヘルペス感染症は 19 件(男性 7、女性 12)、尖形コンジローマは 4 件(男性 3、女性 1)、淋菌感染症は 9 件(男性 7、女性 2)でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

インフルエンザの報告が引き続き増加しています。都筑区では、注意報レベルを超えた数値となっています。今後の発生動向に注意が必要です。

新型インフルエンザウイルスによるインフルエンザ脳症の報告がありました。

8月10日から9月7日までの病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況では、検出された 29 件すべて AH1pdmでした。

平成 21 年 8 月 10 日から平成 21 年 9 月 13 日まで(平成 21 年第 33 週から第 37 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 8 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表

第 33 週	8 月 10 ~ 16 日
第 34 週	8 月 17 ~ 23 日
第 35 週	8 月 24 ~ 30 日
第 36 週	8 月 31 ~ 9 月 6 日
第 37 週	9 月 7 ~ 13 日

全数把握の対象

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:9月の届出数は、18日現在で2件です。感染経路は不明でした。当市での発生件数は少なかったのですが、厚生労働省から飲食店チェーンでの肉の取り扱いについて、緊急情報が出ていますのでご覧ください。

「腸管出血性大腸菌 O157 食中毒の発生について」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/kinkyu/0914-1.html>

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/kinkyu/0908-1.html>

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> も合わせてご利用ください。

- 2 レジオネラ症:9月は18日現在で3件の届出がありました。1月からの報告数は13件となり、昨年よりは減少していますが、2007年より市内では増加傾向にあります(表参照)。レジオネラは、市中肺炎の起因菌として重要ですが、過去に、ジャグジーや入浴施設、冷却塔等での集団感染も報告されています。診断された際には、浴槽の種類や温泉、銭湯等の利用状況等を確認する事も必要であると思われます。

レジオネラ症の報告数の推移(2001年~2009年37週) 2009年は37週まで

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
全国	86	167	147	160	281	518	668	886	491
横浜市	0	3	2	1	8	7	28	32	13

全国のレジオネラ症の報告の傾向は <http://idsc.nih.gov/iasr/29/346/tpc346-j.html> をご覧ください。

- 3 麻疹:2件の届出がありました。引き続き、対象児に対して予防接種の勧奨をお願いいたします。
- 4 急性脳炎:1件の届出がありました。11歳男児に見られた、38度以上の発熱、痙攣、意識障害を伴った新型インフルエンザウイルスによるインフルエンザ脳症です。

なお、平成 15 年 11 月 5 日より、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)は、定点把握対象疾患から全数把握対象疾患となっています。インフルエンザ脳症を診断した場合、全ての医療機関は急性脳炎としての届出をお願いします。

小児における新型インフルエンザの臨床像は、感染症情報センターの情報をご覧ください。

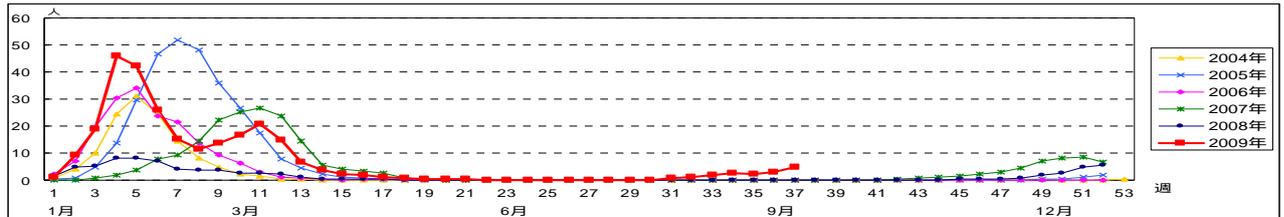
[http://idsc.nih.gov/disease/swine\\_influenza/2009idsc/children0915.html](http://idsc.nih.gov/disease/swine_influenza/2009idsc/children0915.html)

## 定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 第 32 週から定点あたりの報告数 1 を超えていましたが、その後漸増し、第 37 週には、定点あたりの報告数が 4.97 となっています。第 37 週の迅速診断キットの報告では、A 型が 590 件、B 型が 9 件、A、B とも陽性が 3 件となっています。年齢層では 20 歳未満に多く感染が見られます。行政区別では、都筑区が 10.14 と、注意報レベルを超えています。磯子区 9.67、栄区 7.20、港南区 7.00 と続きます。川崎市は 3.57、神奈川県(横浜、川崎を除く、以下県域)では、3.04、全国では 3.21 といずれも横浜より低い値です。

8 月 10 日から 9 月 7 日までの病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況では、検出された 29 件すべて AH1pdm でした。

横浜市における定点あたりのインフルエンザ報告数



年齢層別 5 週集計

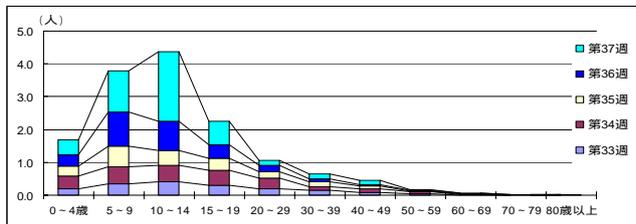
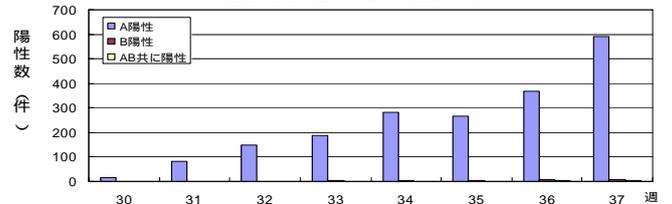
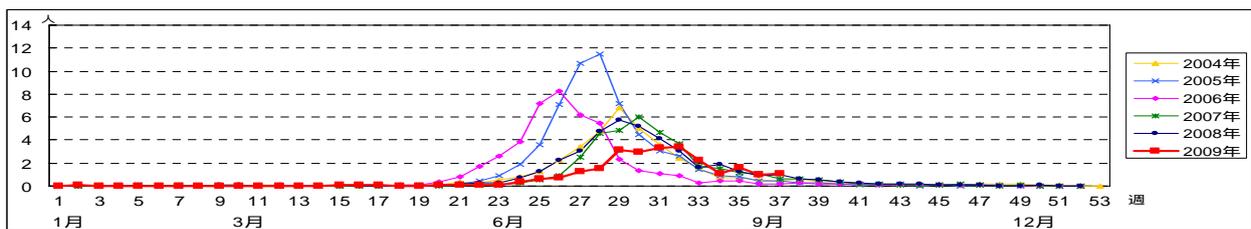


図3 横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



- 2 **手足口病**: 第 30 週に定点あたり 3.00 とピークを迎えましたが、第 37 週には定点あたり 0.73 と減少しています。川崎市は 0.65、神奈川県県域は 0.40、全国は 0.89 でした。
- 3 **ヘルパンギーナ**: 第 37 週では定点あたり 1.06 と減少しましたが、行政区別では、緑区が 5.75 と、引き続き高い値です。続く泉区は 2.75、磯子区は 2.25 です。川崎市では、0.91、神奈川県県域では 1.05、全国では 1.04 でした。

横浜市における定点あたりのヘルパンギーナ報告数



- 4 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

8 月は、性器クラミジア感染症の報告数は男性 22 件、女性 17 件で、15 歳から 40 歳代の年齢分布でしたが、性器ヘルペス感染症は、男性 9 例、女性 18 例で、20 歳から 70 歳以上と、幅広い年齢層に見られています。尖圭コンジローマは男性 3 例、女性 3 例、淋菌感染症は男性 19 例、女性 2 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

市内のインフルエンザの流行が第 43 週に警報レベルとなりました。  
 新型インフルエンザで市内初めてオセルタミビル耐性が確認されました。  
 急性 C 型肝炎の報告がありました。現在感染源について調査中です。

平成 21 年 9 月 21 日から平成 21 年 10 月 25 日まで(平成 21 年第 39 週から第 43 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 9 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表

第 39 週	9 月 21 ~ 27 日
第 40 週	9 月 28 ~ 10 月 4 日
第 41 週	10 月 5 ~ 11 日
第 42 週	10 月 12 ~ 18 日
第 43 週	10 月 19 ~ 25 日

全数把握の対象

- 細菌性赤痢:**チュニジアからの帰国者に見られました。旅行地における感染予防の知識の普及が必要です。海外旅行者のための感染症情報をご活用下さい。[http://www.forth.go.jp/tourist/worldinfo/04\\_africa/h09\\_tuni.html](http://www.forth.go.jp/tourist/worldinfo/04_africa/h09_tuni.html)
- 腸管出血性大腸菌感染症:**10 月の報告数は、28 日現在では 4 例ですが、9 月の委員会後の報告と併せると 8 例です。9 月報告の 2 歳の女兒に HUS が見られました。近隣の複数自治体では、同一の内臓肉チェーン店からの発生もあり、通常ならば報告数の減っていく時期ですが、今後の発生に注意が必要です。飲食店における腸管出血性大腸菌 O157 の食中毒対策について <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/kanshi/dl/090915-1.pdf> をご参考下さい。
- レジオネラ症:**10 月の報告数は、28 日現在で 2 例です。レジオネラ症についてはこちらをご参考下さい。<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/legionellosis1.html>
- 急性肝炎(C型):**1 例みられました。輸血後の発病であり、現在輸血によるものか調査中です。急性ウイルス性肝炎につきましては、感染症法に基づき全数保健所への届出が必要です。また、血液由来製剤投与後に急性ウイルス性肝炎を認めた場合は、薬事法に基づき製造販売業者等への情報提供が必要になります。詳しくは厚生労働省輸血療法の実施に関する指針<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/200412102200021.pdf> 血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/dl/5anzen4a.pdf> をご参考下さい。
- 梅毒:**10 月の報告数は 2 例ですが、うち 1 例は晩期顕症梅毒でした。梅毒は予防と治療が双方共可能な疾病です。感染予防と、後遺症を残さない時期での早期発見のため、今後の啓発が重要と思われます。梅毒についてはこちらをご参考下さい。<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/syphilis1.html>
- HIV 感染:**10 月の報告数は 2 例で、うち 1 例は AIDS の状態でした。また、1 例は同性間の性的接触によるものでした。HIV 感染症に関して治療に到る治療法が無い現状の中で、日本人男性の同性間での性的接触による感染は増加しており、今後感染予防と早期発見の更なる対策が必要です。平成 20 年の現状についてはこちらをご参考下さい。<http://idsc.nih.gov/iasr/30/355/tpc355-j.html>
- 破傷風:**1 例の報告がありました。46 歳の男性です。微細な外傷によるものと思われます。全国でも、破傷風の防御抗体レベルの下限 0.01IU/ml 未満は 40 歳以上に多く、患者も多きが 40 歳以上で見られています。尚 DPT は 1968 年から行われていますが、1970 年代の百日咳ワクチン禍による接種率の一時的な低下の時期があったことにも注意が必要と思われます。平成 20 年末現在の情報をご参考下さい。<http://idsc.nih.gov/iasr/30/349/tpc349-j.html>
- 急性脳炎:**10 月の報告数は 2 例です。4 歳と 10 歳に見られ、インフルエンザによるものでした。先月までに発生があった 2 例は 6 歳と 11 歳であり、季節性インフルエンザに比べると比較的年長児に見られています。インフルエンザ脳症について平成 15 年 11 月より全数届出となっています。季節性インフルエンザによる脳症の状況につきましては、こちらをご参考下さい。  
<http://idsc.nih.gov/iasr/26/309/dj3093.html>      <http://idsc.nih.gov/iasr/23/274/dj2742.html>

## 定点把握の対象

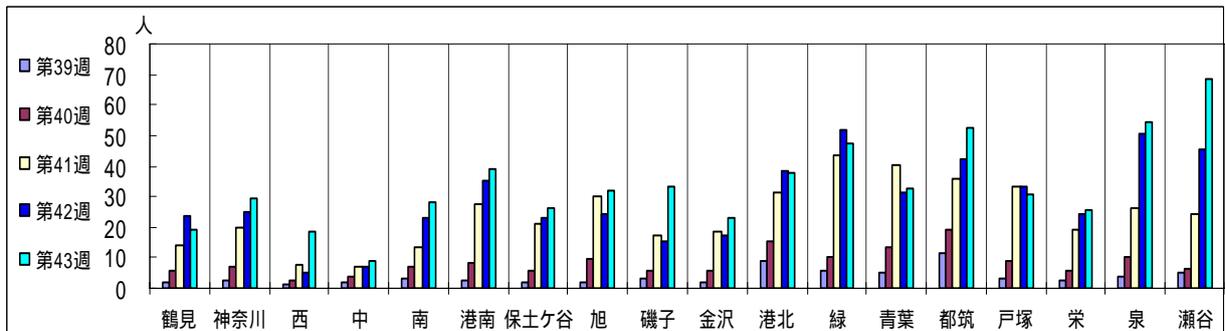
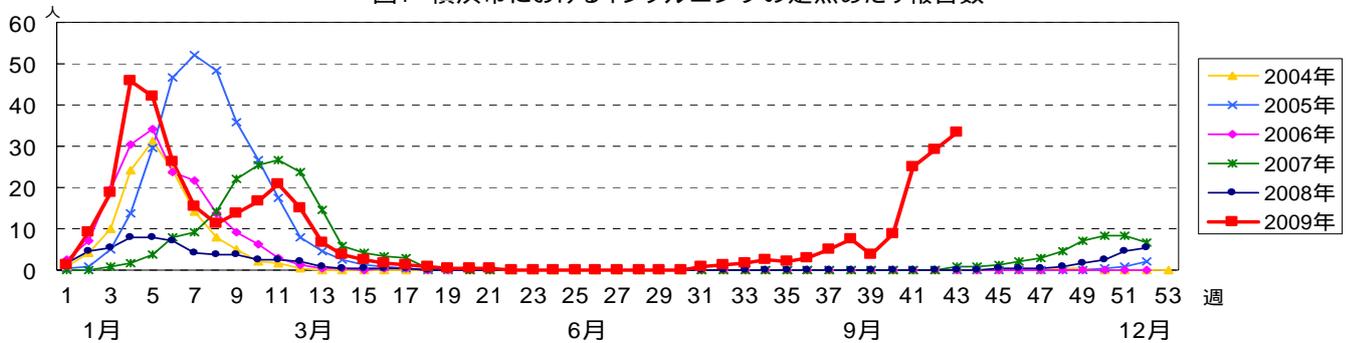
1 **インフルエンザ**:第 41 週には流行の注意報レベルである「10」を超えましたが、第 43 週には定点あたり 33.33 と、警報のレベル「30」を超えています。例年にない早い時期での警報です。行政区別では、瀬谷区 68.29、泉区 54.14、都筑区 52.80、緑区 47.40、その他港南区、磯子区、港北区、青葉区、旭区、戸塚区の計 10 区が定点あたりの報告数 30 を超えており、注意報レベルである「10」を超えていないのは、中区の 8.71 のみです。全国では 24.62、神奈川県(横浜、川崎を除く 以下県域)では 26.29、川崎市では 27.15、東京都では 25.24 と何れも横浜より低い数値です。

また病原体検出状況では、7 月以降すべて新型インフルエンザ A H1 p d m が確認され、季節性インフルエンザは確認されていません。第 36 週(8 月 31 日からの週)から第 40 週(9 月 28 日からの週)までのインフルエンザ(疑い含む)とされた 30 検体について、23 検体に A H1 p d m が検出(うち 1 検体は hMPV(PCR)も検出)され、1 検体は hMPV(PCR)のみが検出されています。残り 6 検体については現在培養中です。今のところ季節性インフルエンザについては検出されていません。

オセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異(H275Y)が 1 例確認されました。オセルタミビルに感受性を持つ季節性インフルエンザ H1N1 に比べると、310 倍くらい感受性が低下していました(IC50 31.1nM)。ザナミビルへの感受性は保持していました。

また今までに解析した 29 株すべてに、アマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異(S31N)が見られています。

図1 横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



2 **感染性胃腸炎**:定点あたりの報告は 1.56 と低値の状態ですが、すでに、市内の学校でノロウイルスによる集団感染が確認されており、今後の流行に注意が必要です。全国では 2.37、神奈川県県域では 2.39、川崎市では 2.55、東京都では 2.19 と何れも横浜より高い数値です。

3 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

9 月は、性器クラミジア感染症は男性 11 例、女性 16 例、性器ヘルペスウイルス感染症は男性 3 例、女性 7 例。尖圭コンジローマは男性 6 例、女性 3 例、淋菌感染症は男性 11 例、女性 1 例が報告されています。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

インフルエンザは 3 週連続して減少していますが、この 3 週間で、0～4 歳は増加しています。年齢層別報告数は、第 43 週からは 5～9 歳が最多層となっています。市内でのインフルエンザ入院サーベイランスの半数は 5～9 歳です。脳症好発年齢への注意が必要です。今シーズンの病原体定点からのウイルス検出状況では、すべて A H 1 pdm であり、季節性インフルエンザは認められていません。冬の感染症については、大きな流行はまだ認められていません。

平成 21 年 10 月 19 日から 11 月 22 日まで(平成 21 年第 43 週から第 47 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 10 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表

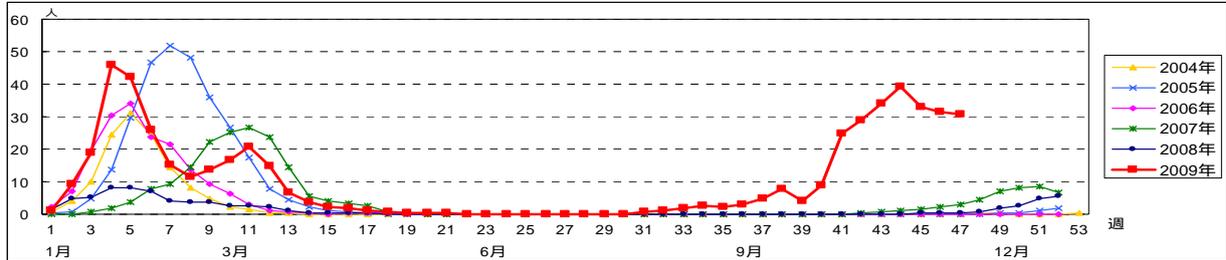
第 43 週	10 月 19～25 日
第 44 週	10 月 26～11 月 1 日
第 45 週	11 月 2～8 日
第 46 週	11 月 9～15 日
第 47 週	11 月 16～22 日

全数把握の対象

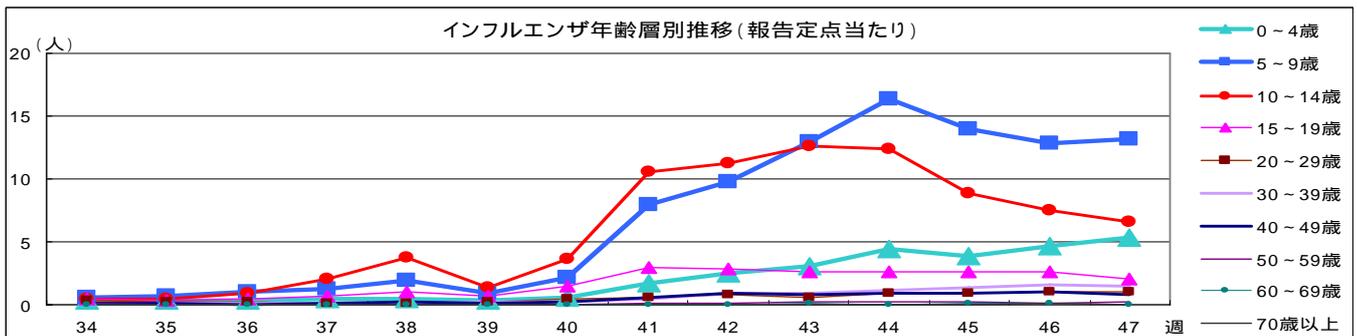
- コレラ:11 月の報告数は、25 日現在で 1 例です。渡航地はインドでした。
- パラチフス:1 例です。渡航地はインドでした。
- 細菌性赤痢:1 例です。渡航地はインド・ネパールでした。
- 腸管出血性大腸菌感染症:3 例です。今年は 1 月からの累計で 80 例の報告があり、昨年同期の 63 例に比べると、やや多い値です。
- レジオネラ症:1 例です。感染経路は不明です。今年の累計は 16 例で、昨年同期の 30 例に比べると少なめです。
- 麻疹:1 例です。予防接種歴は不明です。今年の累計は 42 例で、昨年同期の 1479 例より、著減しています。引き続き予防接種の勧奨が必要と思われます。麻疹は平成 20 年 1 月から感染症法の 5 類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師は届出が義務付けられています。 <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>
- つつが虫病:1 例です。全国的に、秋春に患者が報告されています。山等へのレジャーの際には、手足を露出しない、山道を逸れない等、ダニにさされないような対策が必要です。つつが虫病についてはこちらをご参考下さい。 [http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02\\_g1/k02\\_13/k02\\_13.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g1/k02_13/k02_13.html)
- アメーバ赤痢:3 例です。全例男性です。感染経路につきましては、1 例は性的接触、1 例は国内不明です。1 例はタイと UAE (United Arab Emirates) への渡航歴があります。
- ウイルス性肝炎:急性 B 型肝炎が 1 例です。男性です。感染経路は性的接触によるものです。近年、感染後慢性化しやすい genotype A の割合がわが国でも増えていることが指摘されています。一旦感染し、慢性化すると、治療には相当の労力が必要です。性感染症の最大の対策は、感染予防であるとの周知が大切です。急性 B 型肝炎についてはこちらをご参考下さい。 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/27/319/tpc319-j.html>
- 後天性免疫不全症候群:4 例です。全例男性で無症候期でした。感染経路は 3 例が性的接触、1 例は不明です。
- 梅毒:2 例です。2 例とも男性で、早期顕症 期でした。感染経路は 1 例が性的接触で、1 例は不明です。性感染症は予防できる感染症です。罹患しない知識と、早期発見で早期治療のほかに、パートナーに感染させないことが大切と思われます。性感染症についてはこちらをご参考下さい。 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/343/tpc343-j.html>
- 急性脳炎:3 例が報告され、全て 7 歳で、女兒 2 人、男児 1 人でした。また 10 月に診断された脳炎の追加報告が 1 例あり、7 歳男児でした。4 例のうち、3 例が新型インフルエンザによるもので、1 例は原因不明です。国内の 2009 年の第 28 週からのインフルエンザ脳症は殆どが A H 1 pdm によるもので、年齢中央値は、従来の季節性インフルエンザよりやや年長である 8 歳です。第 33 週に B 型による脳症の報告も認められています。 <http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/idwr09week45.html>  
 全国の病原体検出状況でのインフルエンザの型別内訳は、こちらをご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph/sinin1.gif>  
 今後、インフルエンザ患者動向、型別や、重症化や耐性の遺伝子変異等の病原体情報に注意が必要です。

## 定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 市内流行状況については、第 32 週(8 月 3 日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数 1 を超え、第 44 週には 39.18 と今シーズン最大となりましたが、第 45 週は 32.93、第 46 週は 31.57 と、第 47 週は 30.92 と、3 週続けて減少しています。過去 6 年間で、「定点あたり 30(警報のめやす)」を超えた年が計 4 年ありましたが、ピークから 3 週間後にはピーク時と比し、51%から 26%まで減少しています。今回は過去の流行曲線とは明らかに異なり、ピークの 3 週間後でも 80%に高止まりです。今後の再流行に注意が必要と思われます。
- また、迅速診断キットでは、A 型 2885 件、B 型 11 件、AB 陽性が 2 件でした。



年齢層別では、殆どがこの 3 週では減少傾向にあるなか、0～4 歳の上昇と、5～9 歳の再上昇が目立ちます。市内の学校等施設閉鎖報告数は、ピーク時の第 44 週では 262 施設で患者 4969 人でしたが、第 45 週では 202 施設 3876 人、第 46 週では 190 施設 3227 人、第 47 週では 177 施設 2596 人と、ピーク時と比較し、施設数では 68%、患者数では 52%と減少しています。但し施設閉鎖をした保育園・幼稚園の患者数は、第 44 週は 394 人でしたが、第 47 週では 428 人と増えています。同時期に中学校は、1453 人が 150 人と著減しています。今後とも引き続き保育園・幼稚園年齢には注意が必要と思われます。



全国では 38.89、川崎市では 27.39、東京都は 24.14、横浜と川崎を除く神奈川県(以下県域)では 38.82 でした。

- 2 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 47 週は定点あたり 1.24 と、やや増加しています。全国 0.86、川崎市 0.94、東京都 0.72、県域 0.83 と、いずれも横浜市より低い値です。
- 3 **感染性胃腸炎**: 第 47 週は定点あたり 2.71 でした。全国 2.85、川崎市 3.67、東京都 3.27、県域 2.89 でした。
- 4 **水痘**: 第 47 週は定点あたり 0.78 でした。例年冬から春にかけて報告数の増加が見られるので注意が必要です。全国 1.05、川崎市 0.67、東京都 0.74、県域 0.93 でした。
- 5 **RS ウイルス感染症**: 第 47 週は定点あたり 0.03 でした。全国 0.38、川崎市 0.18、東京都 0.24、県域 0.13 といずれも横浜市より高い値です。ヒトモノクロナル抗体が臨床適応された効果の可能性もありますが、インフルエンザと並ぶ冬季の重要な感染症ですので、今後の動向に注意が必要です。RS ウイルス感染症についてはこちらをご参考下さい。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/rsv1.html>
- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。10 月は、性器クラミジアは 31 例(男性 17 例、女性 14 例)です。性器ヘルペスは 17 例(男性 8 例、女性 9 例)でした。尖圭コンジローマは、11 例のうち男性 10 例と、殆ど男性でした。淋菌感染症は、17 例で、全て男性でした。「感染しない」「早期発見で早期治療」「早期発見でパートナーには感染させない」等、性感染症に対する注意喚起が必要です。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

今月のトピックス

インフルエンザは第 44 週をピークに、第 50 週まで 6 週続けて減少しています。  
 病原体検出状況では、AH1pdm のみ検出され、今シーズンにおいては、季節性インフルエンザは検出されていません。(12 月 17 日現在)  
 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘がやや増えています。  
 感染性胃腸炎は流行が見られていませんが、第 51 週に入って、市内でもノロウイルスによる集団感染の報告があります。  
 RS ウイルス感染症は比較的低値ですが、神奈川県全域、川崎市、東京都と近隣自治体では増加しています。

平成 21 年 11 月 23 日から平成 21 年 12 月 13 日まで(平成 21 年第 48 週から第 50 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 11 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

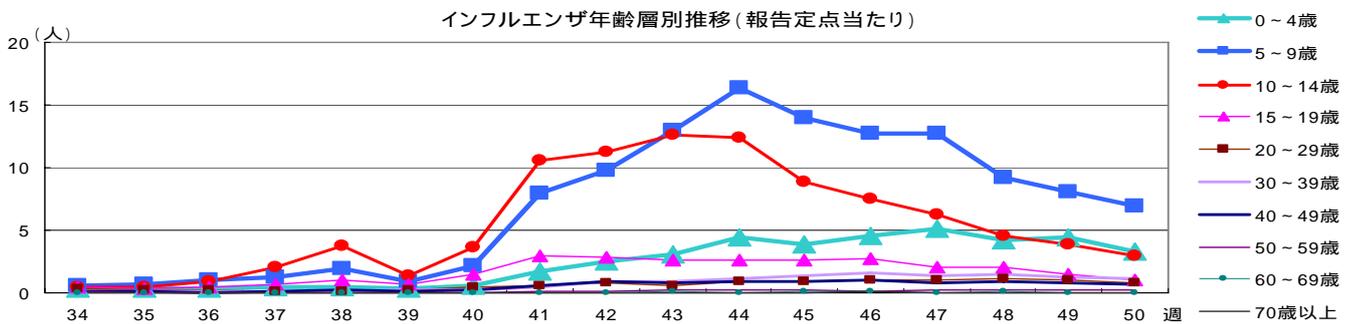
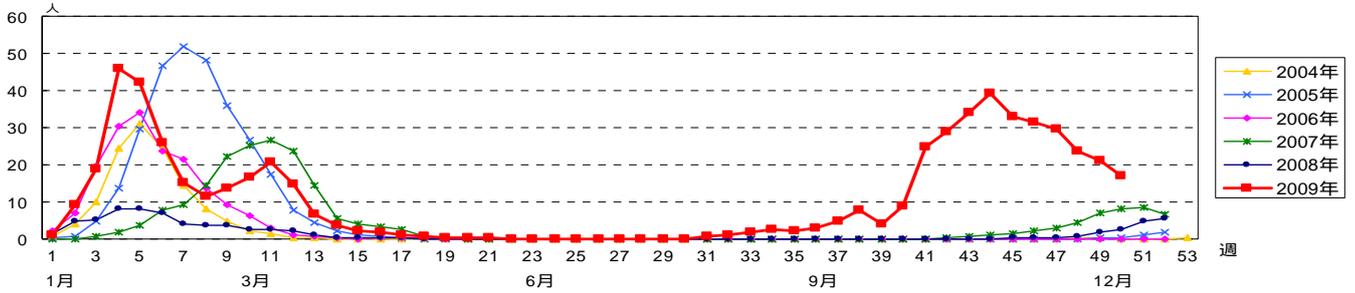
平成 21 年 週 - 月日対照表	
第 48 週	11 月 23 ~ 29 日
第 49 週	11 月 30 ~ 12 月 6 日
第 50 週	12 月 7 ~ 13 日

全数把握の対象

- 腸管出血性大腸菌感染症**: 12 月は 16 日現在で 3 例の報告がありました。1 月からの報告数は 84 例であり、昨年 1 年間の報告数 64 例を上回っています。
- アメーバ赤痢**: 12 月は 4 例の報告がありました。そのうち一例は海外での感染です。1 月からの報告数は 33 例であり、昨年 1 年間の報告数 47 例を下回りました。アメーバ赤痢による感染は、性感染のほかに、飲食物による経口感染がありますので、海外旅行の際には注意が必要です。  
 アメーバ赤痢についてはこちらをご参考下さい。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/entamoeba1.html>
- 後天性免疫不全症候群**: 12 月は 1 例の報告がありましたが、前月以前の追加報告が 4 例あり、計 5 例の新規報告が見られました。5 例のうち 4 例は、男性同性間性的接触によるものでした。1 月からの報告数は 31 例で、昨年 1 年間の報告は 42 例でした。日本は先進国の中でも感染の増加が見られています。特に、男性の同性間性的接触の増加が顕著です。感染予防と、早期発見、パートナーへ感染させないことが大切です。  
 後天性免疫不全症候群についてはこちらをご参考下さい。  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/355/tpc355-j.html>  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>
- 急性脳炎**: 12 月には報告がありませんでしたが、前月以前の追加報告が 3 例ありました。11 歳、18 歳、70 歳でした。何れも新型インフルエンザによるものです。1 月からの報告数は 12 例で、1 例を除いて新型インフルエンザによるものであり、全例新型インフルエンザの流行している 9 月以降に見られています。昨年 1 年間の報告は 2 例でした。インフルエンザに伴う脳炎も、全数届出が必要です。インフルエンザによる急性脳炎についてはこちらをご参考下さい。  
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/idwr09week45.html>  
 届出基準につきましてはこちらをご参考下さい。  
<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/page7/5rui-zk03.pdf>

## 定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**: 市内流行状況については、第32週(8月3日からの週)に流行の目安となる定点あたりの報告数1を超え、第44週には39.18と今シーズン最大となりましたが、第50週17.01と6週続けて漸減しています。年齢層別推移でも、何れの年齢層でも低下が見られます。また、定点医療機関からご協力頂いている迅速診断キットの第50週の結果は、A型1894件、B型5件、AB陽性が1件でした。病原体検出状況では、AH1pdmのみ検出され、今シーズンにおいては、季節性インフルエンザは検出されていません。

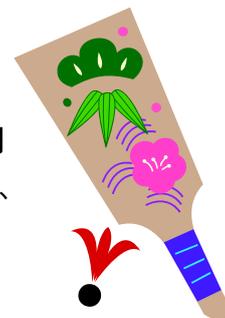


学校等施設閉鎖の報告数は、ピーク時の第44週では262施設で患者4969人でしたが、第45週では202施設3876人、第50週では72施設820人でした。全国では定点当たりの報告数は27.39、神奈川県横浜と川崎を除いた県域(以下県域)は24.13、川崎市は15.61、東京都は13.75でした。

- 2 **RSウイルス感染症**: 例年冬季に流行が見られますが、第50週の定点当たりの報告数は0.05です。全国では0.78、県域では0.57、川崎市0.58、東京都0.31と何れも横浜より高めです。今後の流行に注意が必要です。
- 3 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季に増加します。今シーズンも、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第50週には定点あたり1.40でした。行政区別では港北区(6.14)が高く、次いで泉区(3.25)、瀬谷区(2.67)となっています。全国では1.06、県域0.90、川崎市1.36、東京都1.25でした。
- 4 **感染性胃腸炎**: 例年冬季に流行が見られます。第50週の定点あたり報告数は5.63ですが、第51週に入り、市内でも保育園等集団施設の集団感染の報告が続いています。全国4.79、県域4.22、川崎市8.88、東京都6.23です。病原体がノロウイルスによる場合は、アルコールによる消毒が効果はありません。手洗いに加え、吐物、排泄物の処理等施設管理に注意が必要です。
- 5 **水痘**: 例年、年末にかけて発生が増加します。第50週の定点あたり報告数は1.07でした。全国1.33、県域1.32、川崎市1.70、東京都1.16でした。
- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。  
11月は、10月に比べて全体としては大きな変化はありません。性器クラミジア感染症は、男性12例、女性21例でした。性器ヘルペスウイルスは男性6例女性11例、尖圭コンジローマは男性8例女性3例、淋菌感染症は男性10例女性1例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。  
横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 20 年12月

麻しん（はしか）は 6 例の報告がありました。平成 20 年の累計報告数は 1485 例で、全国の約 14% です。年齢別では 10 代が過半数を占め、予防接種前の 0 歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

レジオネラ症は 2 例の報告がありました。平成 20 年の累計報告数は 32 例となり、平成 19 年 1 年間の報告数 28 例を上回り、これまでで最も多い報告数となっています。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 20 年12月 1 日～12月 28 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		すべての区で流行期に入りました。今後は増えていくと考えられますので動向に注意が必要です。早期のワクチン接種が望まれます。
R S ウイルス感染症		例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。乳児や疾患を持つ幼児では重症になりやすく、注意が必要です。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		冬季の流行期を迎えています。過去 6 年間で最も高い値で推移しているため、動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		流行の大きかった一昨年ほどではありませんが、昨年と同じくらいの値を推移しています。今後の動向に注意が必要です。
水痘		例年、年末にかけて発生が増加します。増加傾向が続いており、平成 20 年 12 月末に最も高い値となりました。今後の動向に注意が必要です。

：流行、 ：やや流行、 ：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、 ：横ばい、 ：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- ・ インフルエンザに気をつけましょう。今年は過去 6 年間で最も流行開始が早かった平成 19 年と同時期に初発の報告がありました。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。
- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。



## 4. 麻しん予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう。
- ・ 平成 20 年 4 月 1 日から、 期（1 歳）と 期（小学校入学前の 1 年間）に加え、 期（中 1 相当の年齢）、 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。
- ・ 横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

横浜市の緊急対策は平成 21 年 3 月 31 日で終了します。是非、この機会に接種を受けましょう！

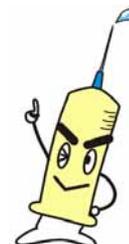
詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>

# 感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法における 1～5 類感染症)平成 21 年 1 月  
 麻しん(はしか)は 7 例の報告がありました。ひと月で 100 例以上の報告があった平成 20 年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ発生がありますので、麻しんにかかっていない方は予防接種を受けることが大切です。(緊急対策は 3 月末で終了)  
 レジオネラ症は 5 例の報告がありました。これまでで最も多い報告数だった平成 20 年と同様に、多く発生する可能性があります。

## 2. 定点報告感染症(感染症法における 5 類感染症)平成 20 年 12 月 29 日～平成 21 年 2 月 1 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		1 月末の時点で、15 区で警報レベルの流行となっています。学級閉鎖等の報告もあり、主に A 型が流行しています。今後の動向に注意が必要です。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加しています。今後の動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		昨年の秋ごろから増加し、昨年末にピークを迎えましたが、その後は減少しています。
水痘		年始に過去 5 年間で最も高い値となりましたが、現在は例年並みの値で推移しています。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- インフルエンザに気をつけましょう。今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、平成 20 年 12 月初旬に流行期に入りました。平成 21 年 1 月中旬に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、翌週にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。現在も依然として警報レベルの流行が続いています。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。「横浜市インフルエンザ流行情報」もご覧ください。



<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza/2009/sokuhou.pdf>

- 麻しん(はしか)に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です!
- ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。



## 4. 麻しん予防接種について

- 麻しん(はしか)の予防接種を受けましょう。
- 平成 20 年 4 月 1 日から、 期(1 歳)と 期(小学校入学前の 1 年間に加え、 期(中 1 相当の年齢)、 期(高 3 相当の年齢)の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。
- 横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

**横浜市の緊急対策は平成 21 年 3 月 31 日で終了します。是非、この機会に接種を受けましょう!**

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 21 年 2 月

麻しん（はしか）は 5 例の報告がありました。ひと月で 100 例以上の報告があった昨年と比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は 2 回の予防接種を受けることが大切です。（緊急対策は 3 月末で終了）

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 1 月 26 日～3 月 1 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		1 月下旬にピークを迎え、その後は減少しましたが、再び増加しています。現在は B 型が優勢です。学級閉鎖等の報告もあり、今後の動向に注意が必要です。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加しています。春の流行に向けて今後の動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		昨年末にピークを迎えましたが、その後減少しています。春に小さな流行があった年もあるので注意が必要です。
水痘		年始に過去 5 年間で最も高い値となりましたが、現在は例年並みの値で推移しています。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- インフルエンザに気をつけましょう。今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、昨年 12 月初旬に流行期に入りました。今年 1 月下旬に横浜市全域が警報レベルの流行となり、その後は減少しましたが、再び増加しています。流行当初は A ソ連型が主流でしたが、現在は B 型が優勢です。A ソ連型はオセルタミビル（商品名：タミフル）耐性のウイルスが流行しています。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。

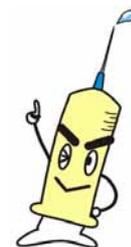


「横浜市インフルエンザ流行情報」もご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza/2009/sokuhou.pdf>

## 4. 麻しん予防接種について

- 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- 2008 年 4 月 1 日から、 期（1 歳）と 期（小学校入学前の 1 年間）に加え、 期（中 1 相当の年齢） 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。
- 横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種（任意接種）を実施しています。



<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

**横浜市の緊急対策は 3 月 31 日で終了します。**

**MR ワクチン 期および横浜市緊急接種対象者は、是非、3 月中に接種を受けましょう！**

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 21 年 3 月

麻疹（はしか）は 2 例の報告がありました。ひと月で 100 例以上の報告があった昨年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻疹にかかっていない方は 2 回の予防接種を受けることが大切です。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 2 月 23 日～3 月 29 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		2 月下旬から再び増加していましたが、現在は減少しています。型別では B 型がほとんどです。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		現在はまだまだあまり多くありませんが、例年 5 月～6 月にかけて流行するので今後の動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		昨年末にピークを迎えましたが、その後減少し、現在は例年並みの値で推移しています。
水痘		例年よりやや高い値で推移しています。区によっては流行しているところもあるので注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ インフルエンザに気をつけましょう。

今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、昨年 12 月初旬に流行期に入り、今年 1 月下旬に横浜市全域が警報レベルの流行となりました。

その後は減少しましたが、2 月下旬から再び増加に転じ、3 月中旬頃まで増加しましたが、現在は減少しています。流行当初は A ソ連型が主流でしたが、現在は B 型がほとんどです。予防には、予防接種、手洗い、うがい、マスクなどが有効です。

「横浜市インフルエンザ流行情報」もご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza/2009/sokuhou.pdf>

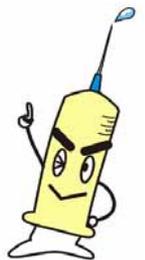


## 4. 麻疹予防接種について

- ・ 麻疹（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！

2008 年 4 月 1 日から、 期（1 歳）と 期（小学校入学前の 1 年間）に加え、 期（中 1 相当の年齢）、 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。

**MR ワクチン** ・ 期の対象者は、早めに接種を受けましょう！



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

# 臨時号

## 感染症に気をつけよう

### 1) 新型インフルエンザについて

- ・メキシコで発生した豚インフルエンザが、4月28日 フェーズ4に引き上げられ、新型インフルエンザとなりました(4月30日現在、フェーズ5)。  
今のところ、日本国内での発生はありませんが、今後注意が必要です。

### 2) 新型インフルエンザの症状

- ・高熱、咳、鼻水、咽頭痛、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛等、現在の情報としては従来のインフルエンザの症状と変わりはありません。

\* 上記症状があり、10日以内に新型インフルエンザが蔓延している国に滞在もしくは旅行した人は医療機関にかかる前に区福祉保健センターの発熱相談センターもしくは、健康福祉局 健康安全課(671-4183)に連絡して下さい。

### 3) 普段から気をつけること

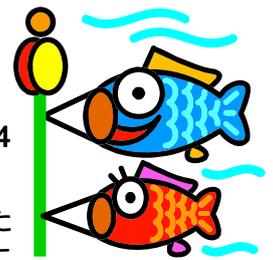
- ・手洗い、うがいを十分行い、人が多く集まる所ではマスクをしましょう。
- ・咳の出る人は咳エチケットを守り、マスクを着用して下さい。



#### \* 咳エチケット

- ・咳、くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ、他人から1m以上離れましょう。
- ・使用したティッシュはすぐにゴミ箱にすてましょう。

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 21 年 4 月

麻しん（はしか）は 6 例の報告がありました。ひと月で 100 例以上の報告があった昨年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は 2 回の予防接種を受けることが大切です。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 3 月 23 日～4 月 19 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		流行はおさまりつつあります。型別では B 型がほとんどです。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		現在はまだまだあまり多くありませんが、例年 5 月～6 月にかけて流行するので今後の動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		昨年末にピークを迎えましたが、その後減少し、現在は例年並みの値で推移しています。
水痘		現在は例年並みの水準で推移していますが、初夏にかけて流行しますので注意が必要です
伝染性紅斑		例年よりやや多く見られています。例年 6 月頃が一番高くなるので今後注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ **感染性胃腸炎** に気をつけましょう。

秋から冬にかけて流行する病気ですが、4 月に入っても保育園・小学校・高齢者施設等で集団発生が見られています。最も有効な感染予防策は手洗いです。

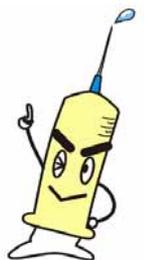


## 4. 麻しん予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！

2008 年 4 月 1 日から、**1 期**（1 歳）と **2 期**（小学校入学前の 1 年間）に加え、**3 期**（中 1 相当の年齢）、**4 期**（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。

**MR ワクチン** ・ ・ **1 期** の対象者は、早めに接種を受けましょう！



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 21 年 5 月

麻しん（はしか）は 3 例の報告がありました。ひと月で 100 例以上の報告があった昨年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は 2 回の予防接種を受けることが大切です。

腸管出血性大腸菌感染症は 4 例の報告がありました。今年に入ってから 10 歳代が多く見られます。毎年、夏に多くなりますので、これから注意しましょう。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 4 月 20 日～5 月 24 日

疾患名	市内流行状況	コメント
季節性インフルエンザ		流行はおさまりつつあります。型別では B 型と A 香港型がみられます。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		現在はまだまだあまり多くありませんが、例年 5 月～6 月にかけて流行するので今後の動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		昨年末にピークを迎えましたが、その後減少し、現在は例年並みの値で推移しています。
伝染性紅斑		例年よりやや多く見られています。例年 6 月頃が一番高くなるので今後注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

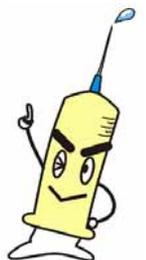
## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ **インフルエンザ**（季節性、新型）に気をつけましょう。予防には、手洗い、マスクなどが有効です。咳エチケットを心がけましょう。今の時期に高熱、咳などインフルエンザが疑われる症状がありましたら横浜市発熱相談センター（045-671-4183）にご相談ください。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）に注意が必要です。生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1 分以上）をしましょう。また、手洗いを心がけ、特にトイレの後や搾乳体験の時など動物とふれあった後には、必ず、石けんを使用して十分に手洗いをしましょう。詳しくは、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> をご覧ください。



## 4. 麻しん予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！  
 2008 年 4 月 1 日から、**1 期**（1 歳）と **2 期**（小学校入学前の 1 年間）に加え、**3 期**（中 1 相当の年齢）、**4 期**（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。  
**MR ワクチン** ・ ・ ・ **1 期の対象者は、早めに接種を受けましょう！**



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における報告対象感染症）平成 21 年 6 月

新型インフルエンザは 6 月 6 日に横浜市で 1 例目が報告され、24 日までに 26 例の報告がありました。39 歳以下が 21 例で、海外渡航歴のある方は 17 例でした。

麻しん（はしか）は 1 例の報告がありました。ひと月で 100 例以上の報告があった昨年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は 2 回の予防接種を受けることが大切です。

腸管出血性大腸菌感染症は 8 例の報告がありました。今年に入ってから 10 歳代が多く見られます。毎年、これから多くなりますので、注意しましょう。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 5 月 25 日～6 月 21 日

疾患名	市内流行状況	コメント
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	例年 5-6 月が流行期で、今年も 6 月に入って高めに推移しています。今後の動向に注意が必要です。
手足口病	➡	増加の傾向が見られます。例年夏にかけて増加するので、今後の動向に注意が必要です。
伝染性紅斑	➡	例年よりも多く、全国と比べても多く見られています。例年 6 月頃が一番高いのですが、今後に注意が必要です。
ヘルパンギーナ	➡	増加の傾向が見られます。例年、7 月に急に増加してくるため、これからの季節は注意が必要です。

：流行、 ：やや流行、 ：散発、 ×：患者報告なし  
 ➡：増加傾向、 ➡：横ばい、 ➡：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

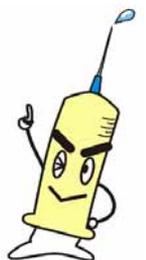
- ・ 新型インフルエンザに気をつけましょう。予防には、手洗い、マスクなどが有効です。咳エチケットを心がけましょう。今の時期に高熱、咳などインフルエンザが疑われる症状がありましたら横浜市発熱相談センター(045-671-4183)にご相談ください。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）に注意が必要です。生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1 分以上）をしましょう。詳しくは、  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> をご覧ください。



## 4. 麻しん予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！  
 2008 年 4 月 1 日から、 期（1 歳）と 期（小学校入学前の 1 年間）に加え、  
 期（中 1 相当の年齢）、 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。2012 年までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。

**MR ワクチン ・ ・ 期の対象者は、早めに接種を受けましょう！**



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における報告対象感染症）平成 21 年 7 月

新型インフルエンザは、6 月 6 日に横浜市で 1 例目が報告され、7 月 30 日までに 1087 人の検査を行い、246 人が陽性でした。重症例は見られませんでした。

麻疹（はしか）は、8 人の報告がありました。予防接種を全く受けていない、または 1 回しか受けていない人がかかっています。

腸管出血性大腸菌感染症は、29 人の報告がありました。判明した原因には、焼肉屋でレバー刺しを食べたり、生焼けの牛肉を食べたりしたことがありました。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 6 月 22 日～7 月 26 日

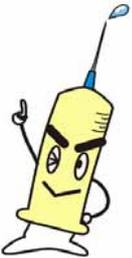
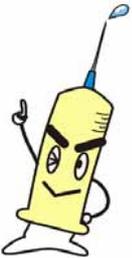
疾患名	市内流行状況	コメント
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		例年 5 月から 6 月が流行期で、今年も 7 月に入ってから落ち着いてきています。
手足口病		増加の傾向が見られます。例年夏にかけて増加するので、今後の動向に注意が必要です。
伝染性紅斑(りんご病)		例年 6 月が多いので、7 月に入ってから落ち着いてきていますが、全国と比べるとやや高めです。
ヘルパンギーナ		例年 7 月から流行が見られますが、増加の傾向が見られます。今後も注意が必要です。

：流行、：やや流行、：散発、×：患者報告なし  
：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ 新型インフルエンザに気をつけましょう。予防には、手洗い、マスクなどが有効です。高熱、咳、全身の関節痛や倦怠感等インフルエンザが疑われる症状がありましたら医療機関を早めに受診しましょう。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）に注意が必要です。生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1 分以上）をしましょう。詳しくは、<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> をご覧ください。
- ・ 手足口病 例年夏にかけて多く見られる、手と足と口に水疱が見られる疾患です。感染は主に咽頭を介しますが、症状が治まってからも、4 週間程度、糞便中にウイルスが排出されることがあるので、オムツなど排泄物等の取り扱いには注意しましょう。

## 4. 麻疹予防接種について

- ・ 麻疹（はしか）予防のためには、2 回のワクチン接種が有効です！  
2008 年 4 月 1 日から、 期（1 歳）と  期（小学校入学前の 1 年間：年長）に加え、 期（中 1 相当の年齢）、 期（高 3 相当の年齢）が対象となっています。

**MR ワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）  期の対象者は、早めに接種を受けましょう！**

詳しい情報は、横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>



## 感染症に気をつけよう

### 1. 夏の季節ですが、インフルエンザに気をつけましょう。

例年、寒くて乾燥している冬に見られるインフルエンザが、8月に入って増えています。医療機関からの報告は、第32週(8月3日から8月9日)の集計から、流行の目安となる「1」を超えています。

### 2. 新型インフルエンザの集団(クラスター)発生が見られます。

7月24日から8月16日の間に、20例の集団発生の報告が見られました。保育園が5園、中高校が9校、大学が4校、病院が1、その他1の計20例でした。学校での集団は、部活動を中心としたものでした。夏休みが終わると学校が始まります。今までは部活動の中での流行ですが、今後学校全体の中での流行になるかもしれません。毎日の健康管理に十分気をつけましょう。

### 3. 日常生活のこころがけ

規則正しい生活で、毎日の栄養や運動等体調管理に気をつけましょう。  
咳エチケットをこころがけましょう。  
積極的な手洗いやうがいを行いましょう。  
情報収集と、冷静な対応をこころがけましょう。



### 4. かかったかなと思ったら

早めに医療機関を受診しましょう。  
医療機関を受診する時は、必ずマスクをつけましょう。  
また予め受診する時間帯・場所も確かめましょう。  
脱水予防に、こまめに水分をとりましょう。  
会社や学校は休みましょう。  
これはご自身の体調のためと、周りに感染を広げないために必要です。



### 5. 学校や福祉施設等集団施設管理者の方へ

インフルエンザの集団感染を疑った場合は、最寄りの福祉保健センターへご相談下さい。

詳しい情報は、  
こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo\\_kenkou/homecare.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html)

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html>

横浜市内の最新の流行情報については、

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 新型インフルエンザの集団報告

新型インフルエンザは、7月24日から8月23日の間に28件の集団発生の報告があり、うち26件が、保育所、中学校、高校及び大学でした。中学校、高校、大学は、部活動や合宿での発生が見られました。今のところ小学校での報告はありませんが、夏休み明けの学校での集団発生も懸念されます。

## 2. 全数報告感染症（感染症法における報告対象感染症）平成21年8月

麻疹（はしか）は、幼児2人の報告がありました。2人とも予防接種を1回受けていました。B型肝炎の発生が家族の中で見られました。

## 3. 定点報告感染症（感染症法における5類感染症）平成21年7月20日～8月23日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ	↑	8月に入って、市内でも流行が見られています。市内流行のインフルエンザは、殆ど新型インフルエンザと思われる。学校が始まってからの更なる流行が心配です。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	落ち着いて流行は見られません
手足口病		ピーク時の半分ですが、まだ流行が見られています。
伝染性紅斑（りんご病）		ピーク時の3分の1と、落ち着いてきています。
ヘルパンギーナ		ピーク時の3分の1と、落ち着いてきています。

↑：流行、↑↑：やや流行、↑↑↑：散発、×：患者報告なし  
 ↑↑↑：増加傾向、→：横ばい、↓：減少傾向

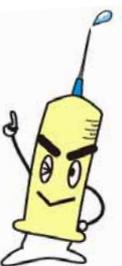
## 4. この時期の気をつけたい感染症とその予防法

- ・（新型）インフルエンザの予防には、手洗い、マスクが有効です。くしゃみを手で押さえたら、すぐ手を洗いましょう。また、長い時間人ごみにいることを避け、規則正しい生活、十分な睡眠、適度な栄養、運動等日ごろの健康管理も大切です。具合が悪いときは、早めに休みましょう。



もし、高熱、咳、関節痛や全身倦怠感等インフルエンザが疑われる症状が出ましたら、医療機関を受診しましょう。感染した場合は、学校、仕事は休み、家族の方も健康管理をするようにしましょう。

- ・腸管出血性大腸菌感染症（O157等）は毎年夏の時期に多く報告されます。生肉（生レバー等）や生焼けの肉を食べないようにしましょう。食品を調理する際は、中まで火が通るように十分な加熱（75℃ 1分間以上）をしましょう。
- ・手足口病は、例年夏に流行する、手と足と口に水疱が見られる疾患です。感染は主にくしゃみ等の咽頭（のど）からの飛沫感染ですが、症状が治まってからも、4週間程度、糞便中にウイルスが排出されることがあるので、オムツなど排泄物等の取り扱いには注意しましょう。



## 5. その他

- ・B型肝炎 母子感染（垂直感染と言われています）のほかに、血液感染や、夫婦間で感染するなどの水平感染も知られています。感染すると、軽い症状だけの方もいますが、非常に重症になる危険性もある感染症です。B型肝炎はワクチンで予防できる病気です。B型肝炎検査で陽性と言われた方は、必ずご家族のことも主治医に相談しましょう。
- ・麻疹（はしか）予防のためには、2回のワクチン接種が有効です。1回しか接種していなくても、ある程度の免疫があれば、発病しても軽くすみますので、今後も接種対象年齢になったら、出来るだけ早く予防接種を受けましょう。



2008年4月1日から、1期（1歳）と2期（小学校入学前の1年間：年長）に加え、3期（中1相当の年齢）、4期（高3相当の年齢）が対象となっています。

詳しい情報は、横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における報告対象） 平成 21 年 9 月

麻しん（はしか）は 3 例の報告がありました。

腸管出血性大腸菌感染症は 6 例の報告がありました。近隣の自治体では、飲食チェーン店において O157 食中毒患者の発生が多く見られました。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 8 月 10 日～9 月 13 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		報告数が漸増しています。市内で流行しているものは殆どが新型インフルエンザと思われますが、一部 B 型も見られます。
手足口病		例年夏に流行が見られます。今年は 8 月に流行が見られましたが、落ち着いてきています。
ヘルパンギーナ		今年は 7、8 月に小さな流行が見られましたが、落ち着いてきています。散発が見られています。

：流行、 ：やや流行、 ：散発、 ×：患者報告なし  
：増加傾向、 ：横ばい、 ：減少傾向

## 3. この時期に気をつけたい感染症とその予防法

- 腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）に注意が必要です。

今年 9 月、飲食チェーン店での角切りステーキ肉（サイコロ状の加工肉など）が原因と推定される O157 による食中毒が、広域で発生しました。

この感染症（食中毒）の予防には、生肉（生レバー、ユッケ等）や生焼けの肉を食べないようにし、肉を調理する際は、中心部まで火が通るように十分に加熱（75℃ 1 分以上）をしましょう。詳しくは、次をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

- インフルエンザに気をつけましょう。予防には、日常の健康管理の他に、ワクチン接種（新型インフルエンザについては、今後対応可能になることが予定されています）、手洗い、うがい、マスクなどが有効です。咳エチケットも心がけましょう。この時期に、高熱かつ呼吸器症状がある場合は、新型インフルエンザウイルスによる感染が疑われます。小さいお子様の場合は、日頃から主治医を見つけておくことが大切です。
- ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、秋から冬にかけて流行する感染症です。これからの時期は、胃腸症状にも気をつけましょう。また飛散した吐物からの感染も報告されていますので、学校や福祉施設等の集団施設に従事されている方は、吐物の取り扱いにも注意しましょう。



## 4. 麻しん予防接種について

- 麻しん（はしか）に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！

平成 20 年 4 月 1 日から、期（1 歳）と 期（小学校入学前の 1 年間）に加え、期（中 1 相当の年齢） 期（高 3 相当の年齢）の定期接種が始まりました。平成 24 年度までの 5 年間で、小・中・高等学校世代が全て、2 回の接種を完了する事を目指します。

**MR ワクチン ・ ・ 期の対象者は、早めに接種を受けましょう！**

平成 24 年度までに、日本から麻しんの排除をする特定感染症予防指針が出されています。対象年齢のこどもは必ず予防接種を受け、かかった場合は、医療機関を受診しましょう。また、感染したかもしれない方の予防接種等も主治医に相談しましょう。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou21/dl/071218a.pdf>

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>



# 感染症 Q & A

新型インフルエンザ  
って何だろう

0157って  
何だろう？

衛(まもる)君と研先生の一問一答

- 衛君** 「先生 最近話題になっている感染っていったい何なんですか？」
- 研先生** 「病原体が体内に入って、定着し、増殖することだよ。口から入って、そのまま、胃や腸で消化されたり、定着しないで、便とともに排泄されたら感染とは言わないんだよ。」
- 衛君** 「できればかかりたくないけれど、どうすれば予防できるんですか？」
- 研先生** 「感染には3つの要素が必要で、【病原体】と【感染経路】と【人間】がいて初めて成立するんだ。感染症対策には、必ずこの三つの視点から考えることが重要なんだ。今話題の腸管出血性大腸菌感染症とインフルエンザの二つの病気から、その予防対策を見てみようか。」
- 衛君** 「はい お願いします。」

## 大切なこと(感染症対策の3つの視点)

感染症対策は、**病原体** と **感染経路** と **人間** の3つの視点で考える

【インフルエンザと 腸管出血性大腸菌感染症の違い】

	インフルエンザ	腸管出血性大腸菌感染症(0157等)
病原体	ウイルス。鳥、豚、馬、犬等に感染する各種の型がある。鳥インフルエンザが有名。鳥の多く、特に野鳥は感染していても症状が見られない。	細菌。牛等の腸管に見られることもある。牛では無症状。感染した人間も無症状の時がある(健康保菌者)
感染経路	飛沫感染(くしゃみ等のしぶき) 接触感染(口や目に触って感染) 感染した人がマスクをして飛沫を飛ばさないようにしたり、ウイルスのついた手で目や口を触らないことが予防になる。	経口感染(加熱不十分の肉)  【付けない(汚染しない)】、【増やさない(冷蔵庫に保管)】、【ノックアウト(加熱殺菌)】の3つで予防する。
人間	予防接種がある。  一般的な免疫を強くする。つまり、十分な休養、栄養、運動等日常の健康管理をこころがけ、体調不良時には十分な休息をとり、適宜専門家に相談できるように日頃から主治医を見つけておくことが大切である。	予防接種は無い。

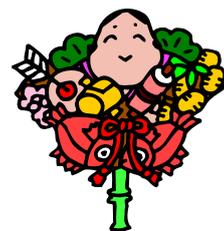
- 研先生** 「インフルエンザの予防には、マスクやうがい手洗いが、0157の予防には、お肉をよく焼くことが大切なんだよ。」
- 衛君** 「でも先生。みんな春からマスクや手洗いうがいをしてインフルエンザにかからないように一生懸命予防していたのに、どうして流行しちゃったのかなあ。」
- 研先生** 「それはね、インフルエンザウイルスが他の病原体より感染力が強いからなんだ。感染症は、一つの予防手段では完全には予防できないので、バランスよく対応することが大切なんだよ。でもね、みんながマスクや手洗いうがいをしていたから、学校のような大きな集団では、感染拡大が抑えられている可能性があるんだ。患者の急激な増加が抑えられると、医療機関では、必要な患者さんが適切な医療を受けられることになるよね。」
- 衛君** 「ぼく、麻しんみたいに、インフルエンザも撲滅をめざしたいんだけど……。」
- 研先生** 「麻しんや、過去に撲滅された天然痘は、人にしか感染しないからできるけど、インフルエンザや腸管出血性大腸菌など動物も持っている病原体による感染症は、撲滅は難しいんだ。でも、**かからない！うつさない！**といった予防は、誰にでもできるよ。僕らが今できることは、**こじらせない！**ことだよ。そのために、バランスの良い感染予防と、日頃から主治医を見つけておくこと、感染したらゆっくり休める環境づくりじゃないかな。今日は、感染症のお話をしたけれど、わかってくれたかな？」
- 衛君** 「はい。わかりました。またいろいろ教えてください。」

よこはまの新型インフルエンザ対策をご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hokenjo/genre/kansensyo/pdf/0930shingata\\_influ\\_yokohamanotaisaku.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hokenjo/genre/kansensyo/pdf/0930shingata_influ_yokohamanotaisaku.pdf)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>

# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 21 年10月

細菌性赤痢 アフリカの旅行者に見られました。海外旅行地では、その地域での流行情報を確認して、食べ物、水に注意するなど、感染予防をこころがけましょう。

腸管出血性大腸菌感染症（O157 等） 4 例の報告がありました。感染源は特定されていませんが、近隣の自治体では同一の飲食チェーン店での発生例が複数見られています。外食時の肉類は良く焼いて食べるようにしましょう。

急性脳炎 2 例の報告がありました。新型インフルエンザによるものでした。

梅毒 2 例の報告がありました。うち一例はある程度進行していました。

HIV 感染症 2 例の報告がありました。うち一例はすでに発病している状態でした。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 9 月 14 日～10 月 25 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		市内での流行は警報レベルとなっています。病原体情報から、全て新型インフルエンザによるものと思われます。
RSウイルス感染症		例年、冬季に流行が見られます。乳児や疾患を持つ幼児では重症になりやすく、注意が必要です。
感染性胃腸炎		例年、冬季に流行が見られます。手洗いが特に大切ですが、吐物の取り扱いにも注意を要します。

：流行、 ：やや流行、 ：散発、×：患者報告なし

：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- インフルエンザに気をつけましょう。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。長時間人ごみに出ないことや、適度の栄養と十分な睡眠をとる等、日ごろの生活習慣も大切です。
- ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。乾燥した吐物が室内に舞い上がり、大人数が感染した事例もありますので、吐物は迅速に取り除き、床面等は迅速に消毒しましょう。
- 性感染症に気をつけましょう。予防が一番の対策ですが、もし感染している場合でも、早期に感染がわかれば、パートナーへの感染を防ぐことができます。早めの受診や検診も大切です。



## 4. 予防接種について

- 麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう。平成 20 年 4 月 1 日から 5 年間は、中学校 1 年（期）と高校 3 年（期）に相当する年齢の方も接種対象となっています。麻しんは感染力も強く罹患すると非常に重篤な疾病です。必ず予防接種を受けるようにしましょう。
- インフルエンザの予防接種を受けましょう。今年度は、季節性インフルエンザに加えて、新型インフルエンザの予防接種も行われています。新型インフルエンザの予防接種については、国の方針で、優先的に接種できる方々の順位が定まっています。優先接種者に該当の方は、希望すれば接種を受けることができますので、横浜市からの情報にご注意ください。また、この 2 種類の予防接種を受ける際の接種順序については、地域の流行の情報を考慮しながら、主治医へご相談ください。



詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症（感染症法における 1～5 類感染症）平成 21 年 11 月

- コレラ：1 例報告があり、渡航地はインドでした。  
 パラチフス：1 例報告があり、渡航地はインドでした。  
 細菌性赤痢：1 例報告があり、渡航地はインド・ネパールでした。  
 腸管出血性大腸菌感染症：3 例報告がありました。  
 ウイルス性肝炎：急性 B 型肝炎が 1 例報告されました。感染経路は性的接触によるものでした。  
 HIV 感染症：4 例報告があり、全例無症候期でした。  
 梅毒：2 例報告があり、2 例とも早期顕症 期でした。  
 急性脳炎：3 例報告があり、女児 2 人男児 1 人。2 例が新型インフルエンザによるものでした。

## 2. 定点報告感染症（感染症法における 5 類感染症）平成 21 年 10 月 26 日～11 月 29 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ		10 月末と比べると 2 割ほど患者数が減っていますが、0～4 歳の年齢層は過去 3 週間続けて増加しています。
R S ウイルス感染症		例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。乳児や疾患を持つ幼児では重症になりやすく、注意が必要です。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		例年、初夏の他に冬季にも流行が見られるので、今後の動向に注意が必要です。
感染性胃腸炎		例年冬季に流行が見られます。これからの時期に注意が必要な感染症の一つです。

：流行、 ：やや流行、 ：散発、×：患者報告なし

：増加傾向、 ：横ばい、 ：減少傾向

## 3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ 性感染症に気をつけましょう。感染した場合、治療によって治癒する時もありますが、一生治療を受けなくてはならなかったり、また身体や精神神経に障害を起こしたり、死亡することもあります。一番の対策は感染しないことです。性交渉の際はコンドームを忘れずに、感染予防を心がけましょう。また症状の出ない段階の早期に感染が判明したときは、パートナーに対して検診をすすめると共に、感染させない気配りも大切です。
- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。吐物が空中に飛散することによって、集団に広く感染を拡大させることがあります。吐物は、迅速に密閉除去し、消毒するといった処理をしましょう。福祉施設や保育園、学校等、集団生活の場では気をつけたい冬の感染症です。
- ・ インフルエンザに気をつけましょう。全体の報告数はやや減少していますが、重症化しやすい年齢の、0～4 歳の患者数は増加しています。年末の人ごみに、乳幼児を連れて行くことはやめましょう。咳、痰等呼吸器症状がある場合は、マスクをして他人に感染させないようにしましょう。適度な運動、食事、休養等、日ごろから良い日常生活を心がけ、万が一具合が悪くなったときは、早く休むことが、療養環境と他人への感染防止の意味で大切です。



## 4. 予防接種について

- ・ 麻しん（はしか）の予防接種を受けましょう。
- ・ インフルエンザの予防接種を受けましょう。

横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。

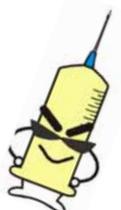
新型インフルエンザの予防接種についても、市からのお知らせにご注意下さい。

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

横浜市衛生研究所（衛研） 感染症・疫学情報課

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken>



# 感染症 Q & A 結核編

(衛くんと研子先生の一問一答)

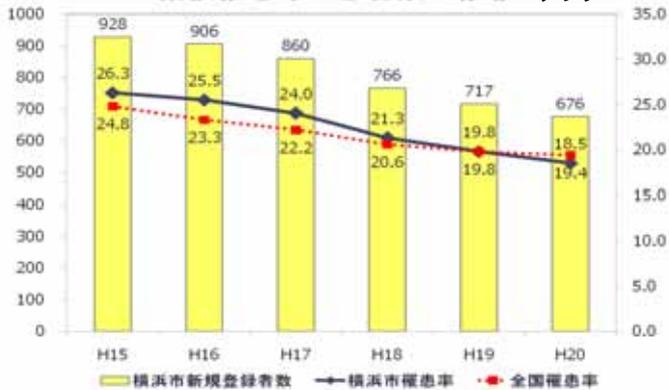
**衛(まもる)** : 研子先生。僕のクラスで先月から結核で入院している人がいるんですけど、元気そうに見えるのに何で入院しなくてはいけないのかなって、その子も良くわからないって。そこで、今日は結核について教えてください。

**研子先生** : いいわよ。まず結核は、結核菌によっておこるのよ。結核患者さんの菌を含む飛沫(咳やくしゃみ等)を吸い込んだり、空気感染といって、飛沫が乾燥して更に小さくなって空気中を漂う飛沫核によって感染するの。空気感染する感染症は、感染症の中でも対策が難しいわ。だから、たとえ元気でも、他人に感染させる可能性のある患者さんは、感染症法で入院しなくてはいけないって決められているの。結核患者さんはみんな入院しなくてはいけないわけではないのよ。

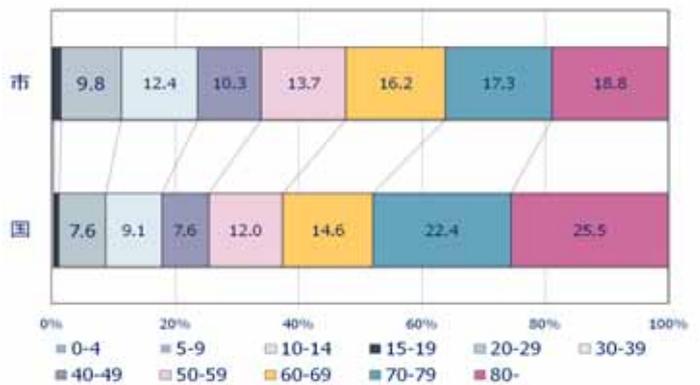
**衛** : 僕のおばあちゃんは、結核なんか過去の病気だから、大げさな対応すぎるって言っていますけど…。

**研** : 確かに終戦前後は、結核による死亡が多かったわね。でも今でも、重要な感染症なのよ。先進国の中でも、日本はまだまだ中程度のまんえん国といって、患者さんが多いのよ。横浜市でも、ここ数年は減少傾向だけど、昨年1年で**676人**(人口10万人当たり18.5人)も新しい患者が報告されているの(グラフ1)。全国に比べると若い世代に多いことが横浜市の特徴よ(グラフ2)。

結核罹患率と患者数の推移 グラフ1



年齢別新登録患者 グラフ2



**衛** : でも昔と違って治療法も進歩しているから、かかってもすぐ治るんですよ。

**研** : いえいえ、昨年だけでも全国で2,216人が結核で亡くなってるのよ。肺だけでなく全身のいろんな臓器にも感染するし、特にこどもは、重症の結核性ずい膜炎になりやすいと言われているのよ。

**衛** : なんだか僕こわくなっちゃった。いったいどうしたらいいんだろう。

**研** : 恐れる必要はないわ。結核は予防できるし、感染しても、発病する前に診断もできるし、もちろん発病してからの診断法も治療法もあるからね。しかも発病前の感染早期にわかれば、「予防内服」といって、発病も予防できる治療法があるのよ。

**衛** : 発病を予防できるなら、なんで患者さんがそんなに減らないんですか。

**研** : それはね、結核は、風邪に似た症状が見られたりするので、軽く見られて受診や診断が遅れることがあるからなの。だから、2週間もの長引く咳があったら受診することが大切よ。生後6ヶ月までの赤ちゃんの場合は、予防接種(BCG)が、重症化防止に非常に重要よ。また、結核の標準治療は半年から9ヶ月以上は必要なのに、服薬すると症状が軽くなるので、治ったと勘違いして服薬を中断する人がいるの。すると再発したときは、耐性菌といって、薬が効かなくなったりして、更に治療が大変になるの。だから半年から9ヶ月以上は治療を続けないとね。中断は決してしないことが大切ね。

**衛** : なんだか僕難しくして良く分かんない。

**研** : 結核は人から人に感染するから、患者さん一人一人に対して、誰から感染したか、そして、誰へ感染させたかを調べるのが大切なよ。治療期間は長いけど、医療費の公費負担制度があるから安心してね。

ただ、結核に感染しても発病するのは10人に1人程度だから、衛くんも結核に負けない身体を普段から作るようにしようね。

**衛** : は~い。



横浜市感染症発生動向調査事業概要  
平成 21 年(2009 年)

横浜市健康福祉局衛生研究所感染症・疫学情報課  
平成 22 年 12 月発行  
〒235-0012 横浜市磯子区滝頭 1-2-17  
Tel 045(754)9815  
Fax 045(754)2210

紙へリサイクル可